

子どもの学びと育ちを受け継ぐために 就学前施設と小学校のさらなる連携の推進方策

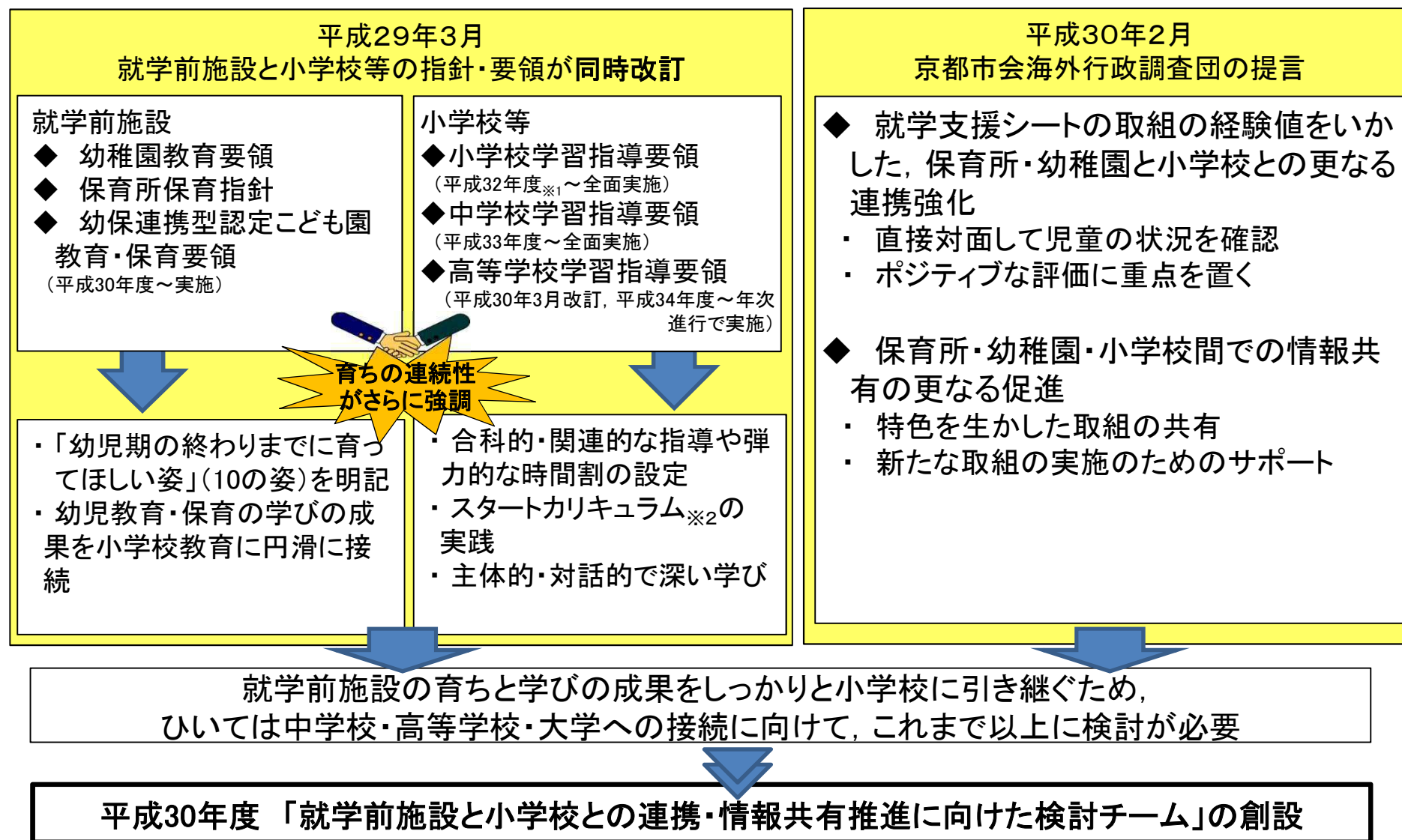
検討結果報告

平成31年3月

就学前施設と小学校との連携・情報共有推進に向けた検討チーム

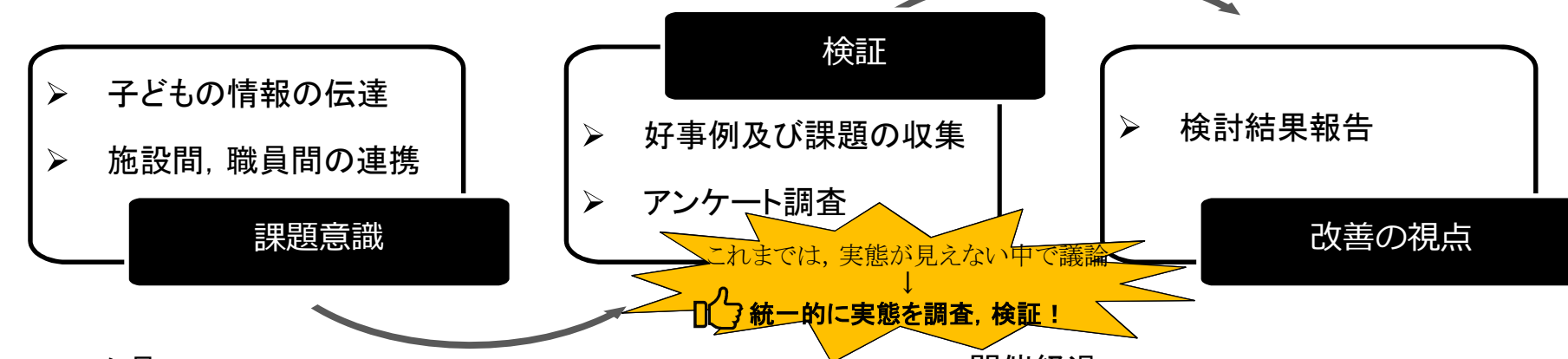
目次

	ページ
1 検討の背景	・ ・ ・ 1
2 検討チームの取組	・ ・ ・ 2
・ 概要	
・ 議論の流れ	
3 検討の前提とした状況	・ ・ ・ 4
・ 入学までの小学校の動き	
・ 入学後の小学校の動き	
4 関係者からの意見聴取	・ ・ ・ 6
5 アンケート調査の実施	・ ・ ・ 7
6 アンケート結果から見たこと	・ ・ ・ 8
・ 子どもたちの卒園・入学状況	
・ 検証結果1～4	
・ まとめ	
7 今後の具体的な取組(案)	・ ・ ・ 14



※1 元号について, 平成31年5月から新元号になる予定だが, 現時点では未定であるため, 引き続き, 平成31年5月以降の表記を「平成」としている。

※2 入学した児童が, 主体的に自己を発揮しながら学びに向かい, 幼児期に育まれた資質・能力を更に伸ばしていくことができるよう, 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえながら, 幼児期の遊びや生活を通した学びと育ちが円滑に接続されるような指導の工夫やカリキュラム編成を行うこと



チーム員

子ども若者はぐくみ局		教育委員会	
役職	氏名	役職	氏名
幼保総合支援室長	○荒木 修生※	指導部担当部長	◎清水 康一
こどもみらい館事務局長	○奥 孝司		
幼保総合支援室		学校指導課	
幼保企画課長	長谷川 秀司	学校指導課長	諏佐 準一
民営保育施設課長	橋本 圭介	担当課長(初等・中学校教育)	関 智也
公営保育所課長	丹野 英司	担当課長(幼児教育企画)	辻 昇
私立幼稚園振興課長	酒崎 伸明	首席指導主事(幼)	田中 順子
保育内容向上課長	中澤 須美子	首席指導主事(小)	松下 誠太郎
企画係長	木村 公則	課長補佐(初等教育係長)	杉本 照代
こどもみらい館		総務課	
総務課長	酒井 庸充	担当課長	福知 賢治
はぐくみ創造推進室			
企画総務課長	安見 唯紀		

◎チームリーダー, ○サブリーダー, ※子ども若者はぐくみ局のチームリーダー

開催経過

日程	会議名
平成30年	5月16日 教育委員会と子ども若者はぐくみ局による合同実務者協議①
	5月31日 第1回検討チーム会議(以下, 全体会議)
	6月14日 合同実務者協議②
	7月31日 合同実務者協議③
	8月6日 第1回小学校部会
	9月3日 第1回就学前部会
	9月18日 第2回小学校部会
	10月29日 第2回全体会議
	11月6日 合同実務者協議④
	11月13日 第3回小学校部会
	11月19日 第2回就学前部会
	11月20日 合同実務者協議⑤
	12月7日 取組状況調査(～12月21日)
平成31年	1月10日 合同実務者協議⑥
	1月30日 こどもみらい館共同機構研修会(保幼小合同研修会)
	2月5日 合同実務者協議⑦
	2月8日 第4回小学校部会
	2月14日 第3回就学前部会
	2月19日 第3回全体会議
	2月22日 合同実務者協議⑧

議論の流れ

情報共有

- 検討チーム内で、小学校と就学前施設の連携状況や、子どもの見取りに関する好事例を共有。
- 多くの小学校における入学前後の1年間の流れについて確認するとともに、小学校からみた児童の出身園数がかなりの数に及ぶ現状について共通理解を図った。

聞き取り

- 小学校教員、就学前施設の園長等から、子どもの情報の引き継ぎや教職員、保育士連携について聞き取り。
- 要録については、就学前施設の印象よりも小学校で活用されている傾向が見て取れた。
- 就学前施設の園長等からは、保幼小連携に対する前向きな姿勢や、すでに取組を実施している施設があることが伺えた。

実態調査
検証

- 更なる実態把握や好事例の収集のため、全市立小学校と就学前施設に、アンケート調査を実施。
- 就学前施設の卒園児についても、多くの小学校に入学している現状がわかった。
- 教職員、保育士の連携については、必要性を感じている小学校・就学前施設が多いこと、要録については、活用状況が共有されていないことなど、改善に向けた視点が見えてきた。

研修会

- 平成31年1月30日に、京都市立小学校と市内の就学前施設を対象とした研修会を実施。
- 小学校と就学前施設との間での子どもに関する情報共有について、実践報告を行った。
- 例年同時期の保幼小連携研修と比べ、**約3倍（193人）の参加者があった。**

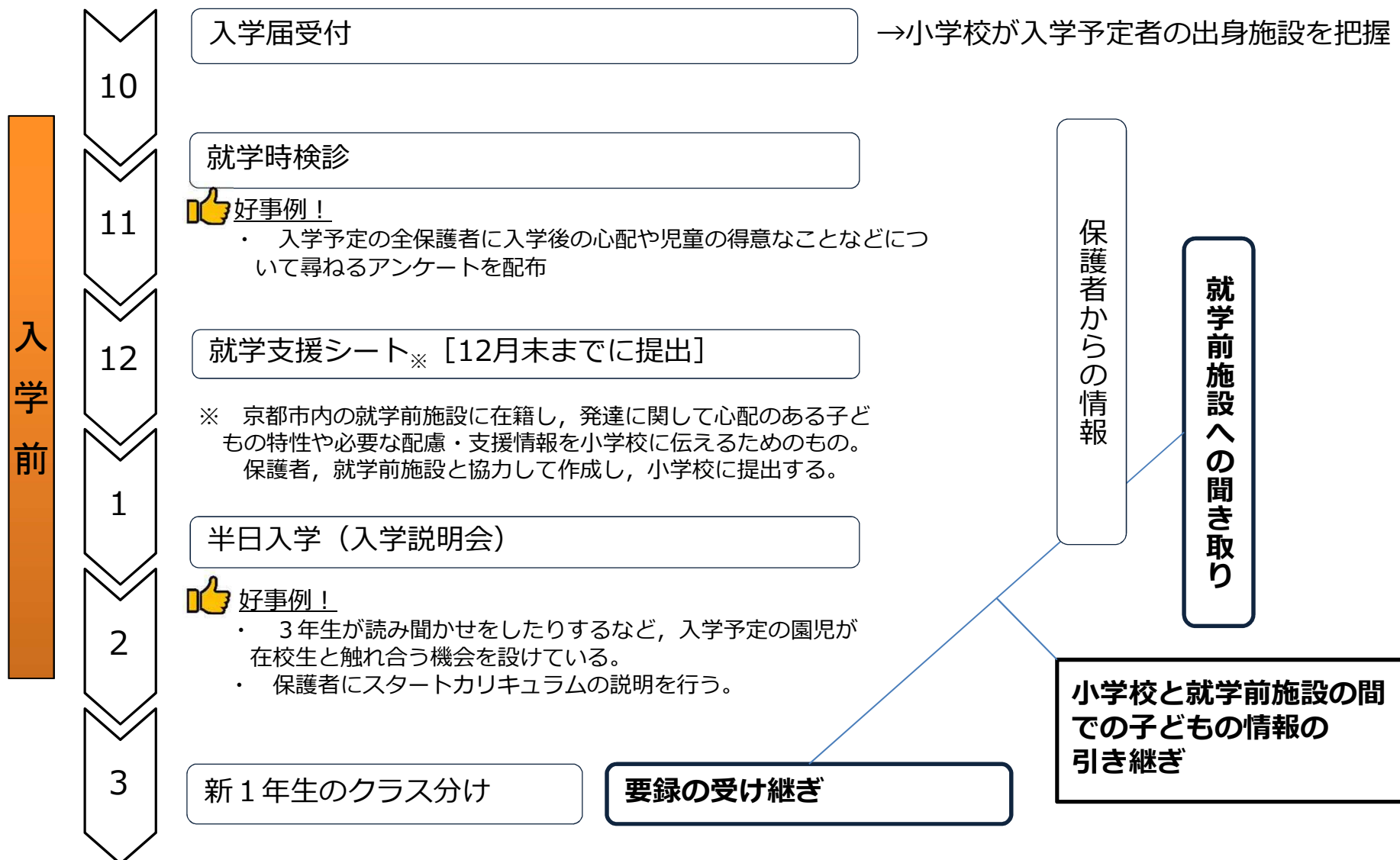
こどもみらい館共同機構研修会

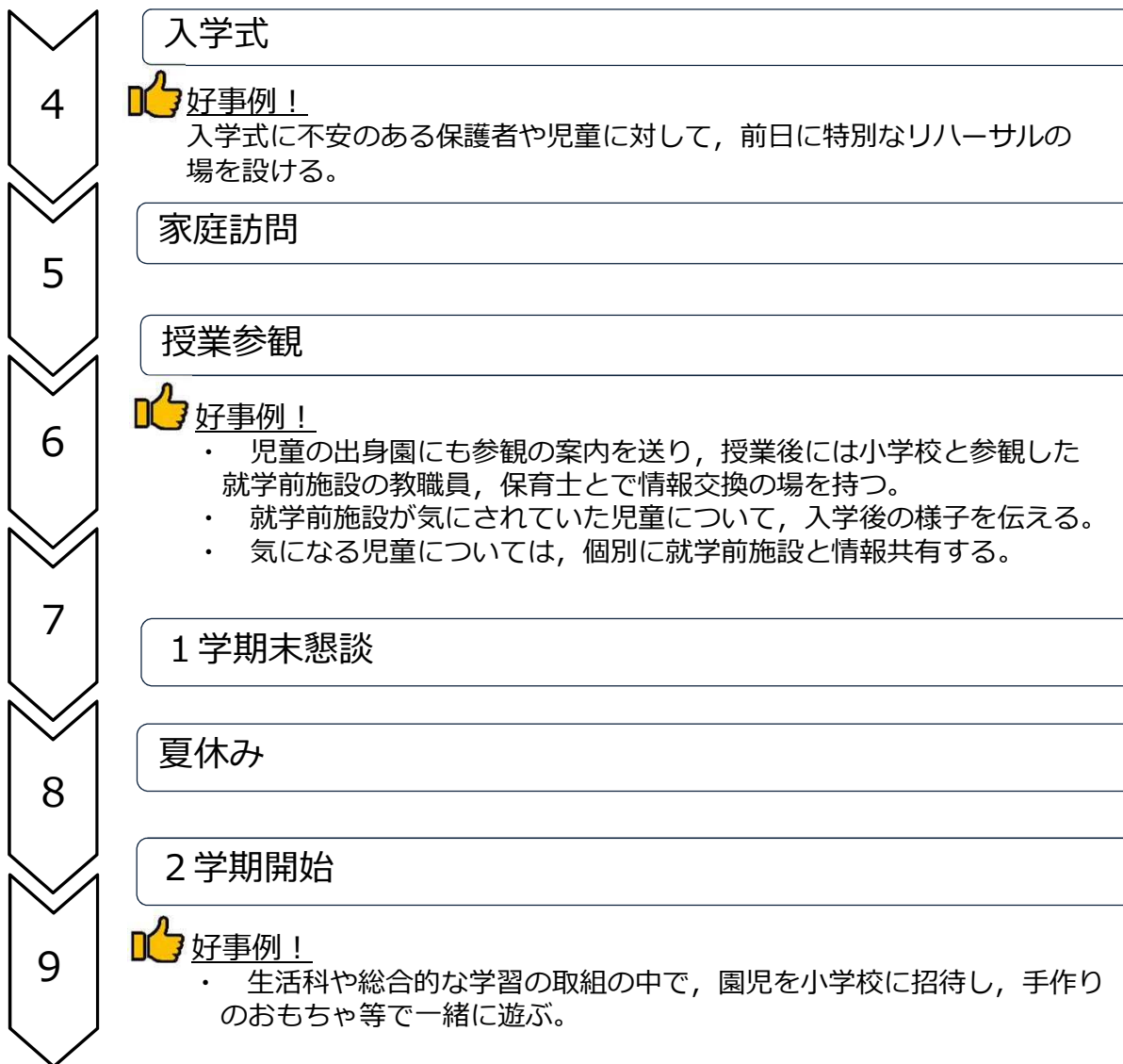
京都市教育委員会・子ども若者はぐくみ局 保幼小合同研修会

- トークセッション「スタートカリキュラムの実践に向けて」
- 講演「就学前施設と小学校とのよりよい連携に向けて」

→ 夏期に実施予定の研修会では保幼小の先生同士が語り合う場を設定







スタートカリキュラム※

- ・ 学習環境を整える
- ・ 合科的・関連的な指導
- ・ 時間割・学習活動の工夫

※ スタートカリキュラム

入学した児童が、主体的に自己を発揮しながら学びに向かい、幼児期に育まれた資質・能力を更に伸ばしていくことができるよう、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえながら、幼児期の遊びや生活を通した学びと育ちが円滑に接続されるような指導の工夫やカリキュラム編成を行うこと

小学校へのプレアンケート（20校の小学校を対象）【平成30年9月実施】

【主な意見】

- ・ 就学前施設と小学校の交流の機会をより充実し、施設ごとの重点取組や子どもたちの状況についてさらに意見交換していくのがよい。
- ・ 協力的な就学前施設が多いが、多くの就学前施設から小学校に入学しているため、連携が難しい。
- ・ 要録での引継ぎをベースに、就学前施設と直接、情報交換することが大切。
- ・ 要録については様式やサイズが揃っていると読みやすい。

就学前施設関係者からの意見聴取 【平成30年10月～12月実施】

【主な意見】

- ・ 保幼小連携を進めていくのはよいこと。以前から近隣の小学校と交流を実施。
- ・ 施設によって事情は異なるため、統一的に押し付けるのではなく、多様な連携方法を提示する方が前進するのではないか。
- ・ 就学前施設も小学校も現場は業務量が多く、負担が大きくなっている。現場の先生の負担軽減のためには、要録を簡素化するといった観点も必要。
- ・ 小学校の先生と本音で話をできる場があると、距離が近くなるのではないか。
- ・ 当区では、保・幼・小・児童館がはぐくみ委員会を作って、研修会等を開催しているが、それぞれに課題が違っているので、テーマ設定が難しい。



更なる実態把握と好事例の収集のためのアンケート調査を実施

5 アンケート調査の実施

P7

実施期間

平成30年12月7日～21日

実施対象数		回答
市立小学校	165	165(100.0%)
私立幼稚園	90	66(73.3%)
民間保育園	229	103(45.0%)
民間認定こども園	34	18(52.9%)
市立幼稚園	15	15(100.0%)
市営保育所	17	17(100.0%)

調査の柱

1 子どもに関する情報の引き継ぎ

2 小学生と就学前施設の子どもの交流

3 教職員、保育士の交流

質問項目（小学校）

- I 入学予定児童に関する個別の情報について
就学前施設との情報交換状況、要録の活用状況など
- II 子どもたちの交流について
就学前施設の園児と小学校児童の交流状況など
- III 子どもの円滑な接続に向けた取組について
スタートカリキュラム、教員交流の実施状況など
- IV 就学前施設から小学校へのよりよい接続に向けて
意識的に取り組んでいることなど

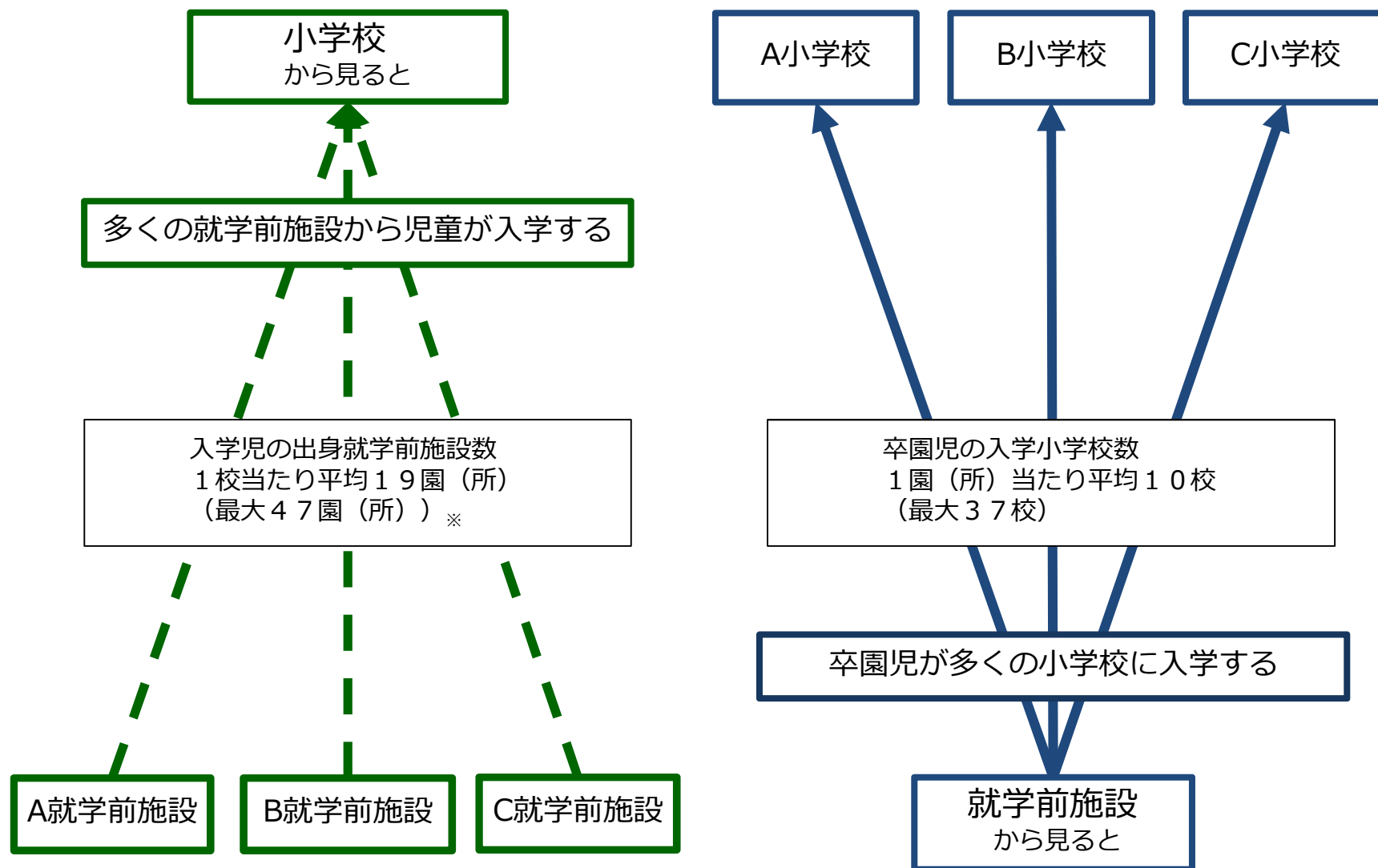
質問項目（就学前施設）

- I 卒園児の状況について
卒園児数、入学した小学校数など
- II 子どもたちの交流について
就学前施設の園児と小学校児童の交流状況など
- III 就学前施設の保育士・保育教諭・教職員と小学校教職員の交流について
入学前・後の情報共有など
- IV 小学校への円滑な接続に向けた取組について
小学校入学後の生活や学習に向けた取組、要録についてなど
- V 就学前施設から小学校へのよりよい接続に向けて
意識的に取り組んでいること、よりよい接続に向けた提案

6

アンケート結果から見たこと（子どもたちの卒園・入学状況）_{P8}

子どもたちは多くの就学前施設から多くの小学校に入学 → 前提として、全ての施設間での連携へのハードルが高い！



※ 平成29年度調査

1 子どもに関する情報の引き継ぎ

指導・要録の活用状況について

小学校	98.8%の学校が「役立てている」
就学前施設	41.9%の就学前施設が「（あまり）活用されていないと思う」

意識差

声

小学校

- ☐ 届いた時点で目を通し、4月の間は子どもの様子を見た後に読み返すこともある。
- 施設によって様式や用紙サイズがバラバラで、外形的な部分で見にくい。
- 就学前施設や教職員、保育士によって書かれている内容の視点がまちまち。

声

就学前施設

- ☐ 小学校との引継ぎのときに要録を見ながら子どもの様子を伝えている。
- どのように活用されているのか、どのような情報が小学校入学後に有用なのかということについて、小学校から聞いたことがない。
- 小学校によって活用度合いに違いがあるように感じる。

好事例

- 個々の子どもたちの成長を小学校でもつなげてほしいとの思いで、その子の育ちを振り返りながらじっくり時間をかけて作成している。
- 気に掛けてほしい園児については、要録だけでなく別途小学校へ連絡を入れるようにしている。
- 要録だけでは書ききれなかった内容については別紙に記入して添付している。

改善策

より見やすく

小学校へはA 4サイズで送付

顔の見える関係づくり

小学校は要録受領後、連絡を！

有効活用に向けて

小学校が活用できる内容を

1 子どもに関する情報の引き継ぎ

個々の子どもに関する小学校と就学前施設との間での情報共有

小学校	全ての学校が「行っている」 46.7%の学校が「入学予定者が在籍する全ての就学前施設と行っている。」
就学前施設	96.3%の就学前施設が何らかの方法で「行っている」

要定着

声

小学校

- ☐ 就学前施設を訪問する際には、複数の教員で訪問している。
- ☐ 各園に出向き、学校独自の引継シートを用いて情報を聞き取っている。
- 訪問依頼の文書を送っても、御返答いただけない就学前施設もある。

好事例

声

就学前施設

- ☐ 進学先の小学校が複数に渡るが、可能な限り情報交換を行っている。
- ☐ 就学支援シートが提出された園児については特に丁寧に小学校と連携している。
- 卒園児が多く的小学校に入学するため、一人ひとりについての申し送りを丁寧に行うことは非常に難しい。

- 小学校、児童館、民生児童委員、保健福祉センター、保育園（所）、学童保育所の代表が集まって、ネットワーク会議を年4回行っている中で、小学校との情報交換を行っている。
- 「育ちの記録」という「その子らしさを大切にする視点で、その子が保育園でどうやってその子らしく過ごしているか、成長しているか」を記録した文章を、乳児クラスは年1回、幼児クラスは年2回発行している。保護者にもコメントを頂き卒園時にすべての記録をお返ししている。
- ラーニングストーリーという子どもの学びと育ちの記録を家庭と共有している。写真とその時に育っている力などを記録したものを保護者に渡し、家庭での様子等をコメントして頂いている。

改善策

信頼関係づくり

日常の交流と必要に応じた交流を

必要性の共通理解

子どもの学びと育ちを繋げるために

連携強化に向けた仕組みの整備

共有内容や時期の標準化、負担軽減

6 アンケート結果から見たこと（検証結果3）

P11

2 小学生と就学前施設の子どもの交流

小学校	67.3%の学校が「行っている」
就学前施設	76.3%の就学前施設が何らかの方法で「行っている」

要定着・
要充実

声

小学校

- ☐ 子どもたちに上級学年としての自覚が芽生える。
- 近隣に就学前施設がなく、どこと交流すればよいのかが分からない。
- 交流に要する時間と人員の確保が難しい。

声

就学前施設

- ☐ 小学生に対する憧れや就学への期待が膨らむ。
- 小学校の校長先生が代わってそれまでの取組が途絶えてしまった。
- 日程調整が難しく、各小学校と等しく交流することが難しい。

好事例

- ◎小学生が就学前施設を訪問
 - 小学生が園の砂場や用具を借りて、図工科の砂場遊びを実施している。
 - 卒園児を中心に5年生が園を訪問し、年長組に歌と踊りを披露。年長組は歌などを披露する。
 - 卒園児が、「お招き会」として幼稚園に来て、小学校の様子を話したり、幼稚園教職員と遊んだりしている。
- ◎就学前児童が小学校を訪問
 - 一年生のクラスに入り、給食の前にランドセルを背負わせてもらったり、用品・道具等を見せてもらったりしながら、小学校生活を教えてもらっている。
 - 避難訓練で小学校へ避難している。

改善策

カリキュラムマネジメント※の視点で
目的、ねらいを明確に

持続可能な形で
カリキュラムに位置づけて

子どもの成長を見取る
子どもの変容を共有

スタート
カリキュラム

※ 児童の実態等を踏まえて教育の内容や時間を配分し、授業改善や必要な人的・物的資源の確保等の創意工夫を行い、組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと

3 教職員、保育士の交流

小学校	77%の学校が「行えていない」
就学前施設	60.8%の就学前施設が「行っていない」

要充実

声

小学校

- ☐ 就学前施設の研究発表に参加している。
- ☐ 小学校の運動場で就学前施設が運動会を行うことで、教職員、保育士の情報交換の場が生まれている。

声

就学前施設

- ☐ 小学校と同じ日に研究保育・授業を行い、事後研修も合同で行った。
- ☐ 一人ひとりの子どもたちの様子を具体的に伝えることができ、安心ができた。

好事例

- 小学校の公開研究発表会に（就学前施設の）職員が参加している。
- 中学校区の幼稚園、小学校、中学校の合同研修会を実施
- 園児・児童の交流活動の事前打ち合わせや事後の話し合いを通して互いの教育観や子ども観等について理解を深めている。
- （小学校に）参観してもらえる行事、公開保育、研究保育等の日程を年度の早いうちに一覧にして小学校に渡している。
- 小学校の学校運営協議会や地域各種団体懇親研修会に園長が出席し、近隣小学校の校長、教頭、教務主任、PTAなどの方と意見を交わしている。
- 地域行事（夏祭り・七夕の会・防災訓練）等を通じて交流している。

改善策

関心を高める

全市研修から学ぶ

既存の取組も生かして

研究発表や休日参観の場でも

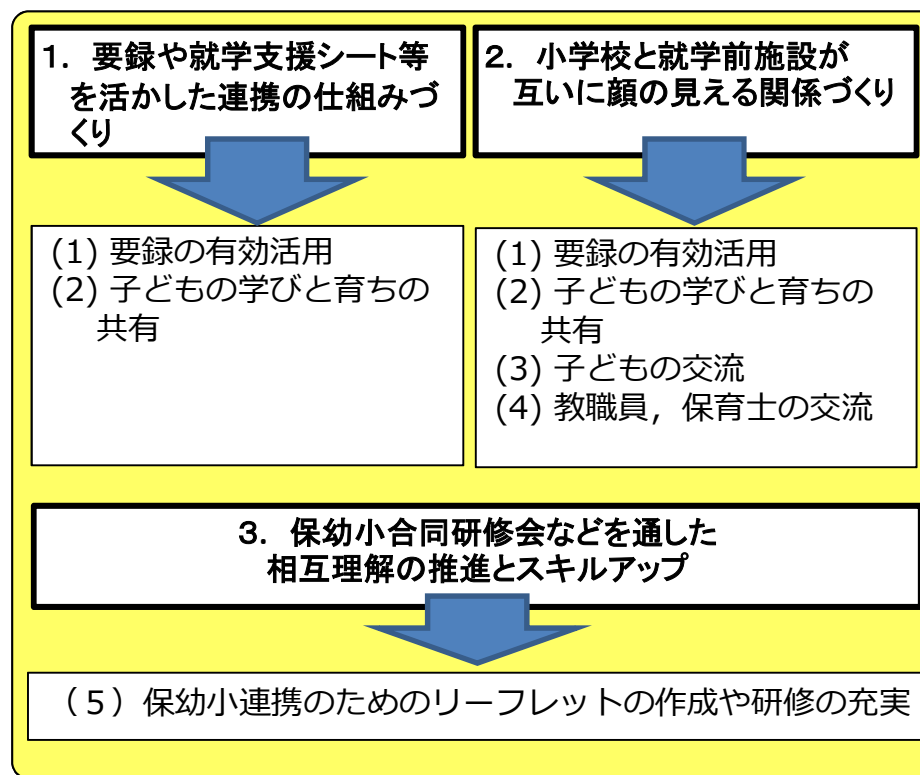
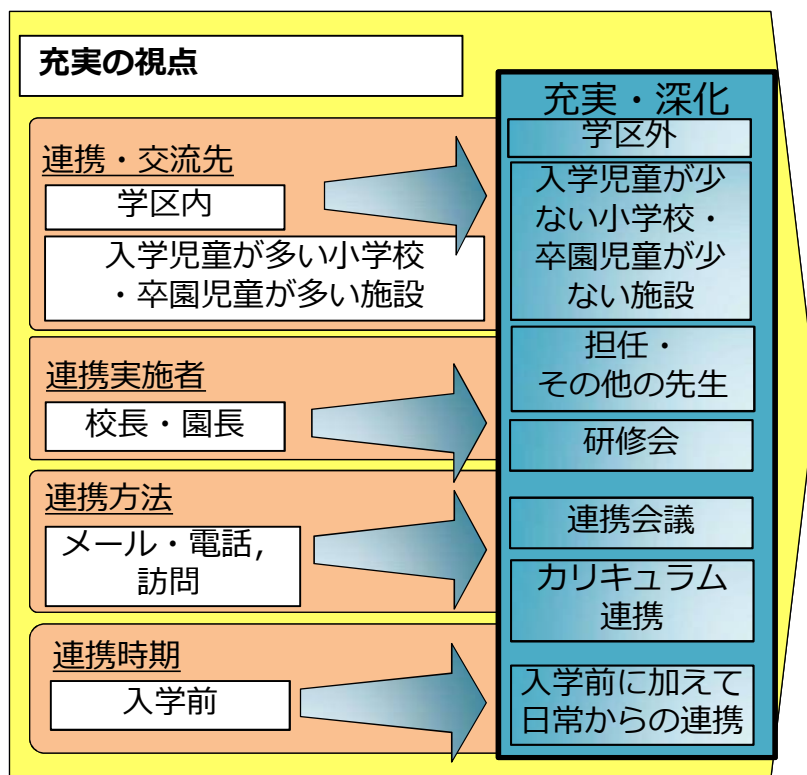
テーマを明確に

何を学び合うのかを意識する

小学校も就学前施設も子どもの学びと育ちの接続については重要性を認識し、取組を徐々に進めている。
個々の児童についての情報連携は要録等により行っているものの、一方で、時間的制約、きつかけがない等の様々な理由により、先生同士の連携や交流の機会の確保が難しい状況がある。

今後の取組の方向性（3つの柱）

教職員や保育士の働き方改革の視点を持ちながら、1.要録等の既存ツールの活用、2.互いに顔の見える関係づくり、3.保幼小合同研修会などを通じた相互理解の推進を柱として、機会の創出、情報発信、意識の醸成を図っていく。



働き方改革の視点

➤ 上記3つの柱1～3を次ページ「今後の具体的な取組（案）」として、5項目に具体化

7 今後の具体的な取組（案）

今後、下記の取組の普及・浸透・好事例の共有に向け、関係団体と意見交換しつつ、取組スケジュールを具体化（平成31年度）

P14

（１）要録の有効活用

- ① 要録の内容の充実
小学校の視点から盛り込んでほしい内容や、実際に児童の理解、指導、支援に役立った要録の記載内容、就学前施設が盛り込みたい内容などを調査し、就学前施設と小学校に発信し、双方の視点を共有する。
- ② 受渡しのルールづくり
「小学校への送付はA4版に統一する」、「要録を受け取った小学校は必ず就学前施設に連絡を入れる」など、受け渡しにあたっての基本的なルールを策定する。
- ③ 様式の検討
より有効活用される要録の在り方について、作成に当たっての負担軽減の視点も加味しつつ、関係団体とともに検討する。

（２）子どもの学びと育ちの共有

- ① 共有項目・時期の標準化
多くの小学校・就学前施設が入り組んで繋がる状況であることから、小学校と就学前施設が一人ひとりの子どもの様子をより丁寧に共有し、引き継ぐことを目指す。小学校から聞き取る情報共有項目や時期、方法を整理し標準化するなど、双方の負担を軽減しながら連携を強めるための仕組みを整える。
- ② 就学支援シートの活用
引き続き、保護者と就学前施設が協力し、発達に関して心配のある子どもの特性や必要な配慮・支援情報を小学校に伝えるための就学支援シートの活用を進める。
- ③ 入学後の情報共有
入学後の休日参観に就学前施設の参加を呼びかけるなど、入学前後を通じた子どもの学びと育ちの共有に努める。

働き方改革の視点

（３）子どもの交流

- ① 交流の内容の充実
交流のねらいや期待する効果を再確認し、好事例を参考にしながら、互恵性のある取組になるよう検討する。
- ② 小学校の年間計画における設定
小学校は生活科や総合的な学習の時間等の年間計画に交流を設定する等、計画的な取組となるよう工夫を図る。
※ 関連する施設数が多い地域については、全ての園児との就学先との交流は困難であることを前提に、効果的な活動となるよう工夫が必要。
- ③ 信頼関係の構築
子どもの交流をきっかけに、小学校と就学前施設が日頃から情報交換できるような信頼関係を構築する。

（４）教職員、保育士の交流

- ① 小学校の行事を通じた交流
「1学期の休日参観は必ず1年生の出身就学前施設に案内を送る」、「公開授業や研究発表会については、近隣の就学前施設には案内を送付する」ことなどに取り組む。
- ② 就学前施設の行事を通じた交流
「卒園児が入学予定の小学校に公開保育の参加案内を送る」といった取組について、好事例の周知啓発を図る。
- ③ 就学前施設間の交流・連携
小学校が核となって、就学前施設間の交流・連携の場を設けることにより、相互理解を深め、全市的な教育・保育の資質の向上を図る。

（５）保幼小連携のためのリーフレットの作成や研修の充実



(案)

子どもの学びと育ちを受け継ぐために 就学前施設と小学校のさらなる連携の推進方策

アンケート調査結果の概要

目次

	ページ
1 アンケート調査の実施概要	・ ・ ・ 1
2 アンケート調査の結果概要	・ ・ ・ 2
(1) 子どもに関する情報の引き継ぎ	
・ 指導・保育要録の活用状況について	
・ 小学校と就学前施設との間での児童に関する 個別の情報交換について	
(2) 小学生と就学前施設の子どもの交流	・ ・ ・ 4
・ 小学校児童と就学前施設の園児との交流について	
(3) 教職員、保育士の交流	・ ・ ・ 5
・ 小学校教職員と就学前施設の保育士・保育教諭 ・教職員との交流について	

資料

○ 小学校のアンケート調査結果	・ ・ ・ 資料2－1
○ 就学前施設のアンケート調査結果	・ ・ ・ 資料2－2

1 アンケート調査の実施概要

P1

小学校		就学前施設	
実施期間		平成30年12月7日～21日	
対象		市内の就学前施設(385園(所))	
市立小学校(165校)			
実施対象数		実施対象数	
回答		回答	
市立小学校 165		私立幼稚園 90	
165(100.0%)		民間保育園 229	
		民間認定こども園 34	
		市立幼稚園 15	
		市営保育所 17	
合 計 165		合 計 385	
165(100.0%)		219(56.9%)	
調査内容			
調査の柱		1 子どもに関する情報の引継ぎ 2 小学生と就学前施設の子どもの交流 3 教職員、保育士の交流	
質問項目		質問項目	
I 入学予定児童に関する個別の情報について 就学前施設との情報交換状況、要録の活用状況など		I 卒園児の状況について 卒園児数、入学した小学校数など	
II 子どもたちの交流について 就学前施設の園児と小学校児童の交流状況など		II 子どもたちの交流について 就学前施設の園児と小学校児童の交流状況など	
III 子どもの円滑な接続に向けた取組について スタートカリキュラム、教員交流の実施状況など		III 就学前施設の保育士・保育教諭・教職員と小学校教職員の交流について 入学前・後の情報共有など	
IV 就学前施設から小学校へのよりよい接続に向けて 意識的に取り組んでいることなど		IV 小学校への円滑な接続に向けた取組について 小学校入学後の生活や学習に向けた取組、要録 など	
		V 就学前施設から小学校へのよりよい接続に向けて 意識的に取り組んでいること、よりよい接続に向けた提案	

指導・保育要録の活用状況について

小学校

Q 就学前施設から送付された要録は幼児期の教育からの円滑な接続に向けて、校内において活用していますか。【資料2-1 Ⅲ-(1)問4】

➤ 活用している。

163 (98.8%)

➤ 活用できていない。

2 (1.2%)

就学前施設

Q 貴園から送付した要録は、幼児期からの円滑な接続に向けて、小学校において活用されていると思いますか。【資料2-2 IV-問6】

(有効回答数 = 212)

➤ 十分活用されていると思う。

6 (2.8%)

声

進学先の小学校との交流で、事前把握のために非常に参考になるとの報告を受けているため。

➤ ある程度活用されていると思う。

91 (42.9%)

声

卒園生の様子を小学校の先生から聞いたときなどに、要録や子どもの様子を口頭で伝えたことが、学校生活で活かされているなど感じるため。

➤ あまり活用されていないと思う。

76 (35.8%)

声

小学校の先生方も忙しく、要録自体は何かあった時に初めてじっくり読むということになっているように思う。

➤ 活用されていないと思う。

13 (6.1%)

声

入学前の子どもの指導要録を読んでも理解しにくいし、時間も膨大にいますので不可能だと思います。

➤ その他

26 (12.3%)

活用されているかどうか分からない など

活用されていると思う

45.7%

活用されていないと思う

41.9%

小学校と就学前施設との間での児童に関する個別の情報交換について

小学校

Q 次年度入学予定の児童について、要録以外の方法で就学前施設からどのように情報を得ていますか。
【資料2-1 Ⅲ-(1) 問1】



➤ 電話	125 (75.8%)
➤ 小学校の先生が就学前施設を訪問	138 (83.6%)
➤ 教職員の連絡会	81 (49.1%)
➤ 特に行っていない。	0 (0.0%)

就学前施設

Q 小学校に入学予定の児童について、貴園から小学校に対し、どのように情報をお伝えしていますか。(複数回答可) 【資料2-2 Ⅲ-問1】



(有効回答数=217)

➤ 電話・メール	106 (48.8%)
➤ 小学校の先生が就学前施設を訪問	146 (67.3%)
➤ 就学前施設の先生が小学校を訪問	99 (45.6%)
➤ 先生の連絡会・懇談会	73 (33.6%)
➤ 特に行っていない。	8 (3.7%)
➤ その他	40 (18.4%)

学区内の連携会議、地域のイベント など

小学校児童と就学前施設の園児との交流について

小学校

Q 今年度、就学前施設の園児と小学校児童の交流を実施しましたか。【資料2-1 II問1】



➤ 就学前施設の児童が小学校を訪問 102 (61.8%)

➤ 小学校の児童が就学前施設を訪問 43 (26.1%)

➤ 実施していない。 54 (32.7%)

就学前施設

Q 今年度、就学前施設の園児と小学校児童の交流を実施しましたか。(複数回答可)【資料2-2 II-問1】



(有効回答数=215)

➤ 就学前施設の児童が小学校を訪問 119 (55.3%)

授業参加等, 学習発表会, 運動会 など

➤ 小学校の児童が就学前施設を訪問 95 (44.2%)

運動会, 教育・保育に参加, 授業の一環 など

➤ 実施していない。 51 (23.7%)

小学校教職員と就学前施設の保育士・保育教諭・教職員との交流について

小学校

Q 今年度、就学前施設の先生と小学校の先生の交流，連携を深める取組を実施しましたか。
【資料2-1 Ⅲ-(2) 問3】



➤ 合同研修会	15 (9.1%)
➤ カリキュラム等の意見交換	17 (10.3%)
➤ その他	12 (7.3%)
➤ 特に行っていない。	127 (77.0%)

就学前施設

Q 今年度、就学前施設の先生と小学校の先生の交流，連携を深める取組を実施しましたか。(複数回答可)
【資料2-2 Ⅲ-問3】



(有効回答数 = 209)

➤ 合同研修会	29 (13.9%)
➤ カリキュラム等の意見交換	44 (21.1%)
➤ その他	29 (13.9%)
連絡協議会，小学校の行事，就学前施設の行事 など	
➤ 特に行っていない。	127 (60.8%)

【小 学 校】

就学前施設と小学校との連携・情報共有推進に向けた取組状況 調査結果

平成31年3月

就学前施設と小学校との連携・情報共有推進に向けた検討チーム会議

【備考】

- ・「複数回答可」と記載している設問については、選択肢の割合の合計が100%にならないことがあります。
- ・「問●で「〇〇する。」と回答した学校にお聞きします。」と条件を付した設問について、条件に該当しない学校が回答している場合があるため、条件に該当する施設数と有効回答数が合致しない場合があります。
- ・自由記述については、基本的には原文表記としていますが、公表に当たって、必要最低限の加筆・修正をしている場合があります。

就学前施設と小学校との連携・情報共有推進に向けた取組状況調査

調査対象：京都市立小学校、義務教育学校（前期課程）165校

I 新入学児童が卒園した就学前施設数（29年度調査結果から抜粋、164校対象）

■新入学児童が卒園した就学前施設の数 【平均 19 施設】

- 1～10施設 … 28校（17.2%）
- 11～20施設 … 61校（37.4%）
- 21～30施設 … 59校（36.2%）
- 31施設以上 … 15校（9.2%）

※新入学児童が0名の静原小は除く。

■入学施設数の上位

- ①御所南 202名入学, 47施設
- ②洛央 132名入学, 46施設
- ③岩倉南 131名入学, 41施設
- ④太秦 133名入学, 36施設
- ⑤川岡 108名入学, 36施設

※入学児童数に比して、入学施設数が多い学校

（洛中小 36名入学, 23施設, 南太秦小 41名入学, 25施設, 西京極西小 40名入学, 23施設）

II 子どもたちの交流について

問1	今年度、就学前施設の幼児と小学校児童の交流を実施しましたか（予定含む）。	件数	割合
1	小学生が就学前施設を訪問する。	43	26.1%
2	幼児が小学校を訪問する。	102	61.8%
3	実施していない。	54	32.7%

問2	問1で「1 小学生が就学前施設を訪問する」と回答した学校にお聞きます。どのような交流を行いましたか。	件数	割合
1	運動会に児童が参加する。	3	1.8%
2	生活発表会（劇、歌の発表）に児童が参加する。	2	1.2%
3	保育に児童が参加する。	12	7.3%
4	就学前施設で児童が職業体験を行う。	9	5.5%
5	その他	26	15.8%

自由記述の回答

就学前施設を訪問し、図画工作科でつくったおもちゃを持参したり、一緒に遊んだり、絵本の読聞かせをしたりする（生活科、総合的な学習の時間）。

生活科の学習で公園へ行き、秋みつけを合同で実施。

委員会の取組で児童が制作した大型絵本の読聞かせを行う。

半日入学に向けて5年生が園児の好きなことを聞いたり、一緒に遊んだりする。

3年生児童が、幼稚園のもちつき大会に参加。

問3	問1で「2 幼児が小学校を訪問する」と回答した学校にお聞きします。どのような交流を行いましたか。	件数	割合
1	運動会に園児を招待する。	25	15.2%
2	学習発表会(劇、歌の発表)に園児を招待する。	39	23.6%
3	校内での栽培・収穫体験に園児を招待する。	6	3.6%
4	交流給食に園児を招待する。	13	7.9%
5	授業に園児が参加する。	46	27.9%
6	その他	34	20.6%

自由記述の回答

園児が生活についての話をランチルームで聞いたり、1年生の授業見学をする。

生活科や総合的な学習の取組の中で、園児を招待し、手作りのおもちゃやお店屋さんごっこで一緒に遊ぶ。

1年生と一緒に地域の方々に昔遊びを教えてもらったり、2年生と一緒に遊びを通して交流したりする。

問4	問1で「3 実施していない」と回答した学校にお聞きします。実施していない理由を以下から選択してください。	件数	割合
1	近隣に就学前施設がない。	9	5.5%
2	どこの就学前施設と交流をすればよいのかわからない。	6	3.6%
3	就学前施設からの要望がない。	21	12.7%
4	交流の時間(事前準備や振り返り含む)の確保が難しい。	36	21.8%
5	その他	7	4.2%

自由記述の回答

入学予定児童が在籍している就学前施設が多く、各施設ごとの在籍数が少ないため、実現が難しい。

本校児童と、近隣の幼稚園、保育園の園児の人数が多すぎて、交流の活動が難しい。

これまでに取組の実績がないため、生活科や総合的な学習の時間の年間計画に位置付けることが難しい。

問5	問1で「1 小学生が就学前施設を訪問する」、「2 幼児が小学校を訪問する」と回答した学校にお聞きします。交流時の児童の様子や交流を実施したことにより、児童にどのような変容が見られましたか。
----	--

自由記述の回答

自分たちが小学生になったと実感し、お兄さんお姉さんとして優しくかかわろうとする姿が見られた。

自分の成長について見直したり、振り返ったりする場となっている。また、幼児に喜んでもらえることを大切に交流内容を考えることで、小学生であるという自覚が芽生え、意識が高まる。

幼児を迎え、しっかり案内できたことで、児童の自信が深まるとともに、2年生に向けての気持ちが高まった。

5年生は交流を通して次年度に最高学年になる自覚が高まる。

問6	半日入学や就学時検診において、在校生と就学前児童が触れ合う機会を設定していますか。	件数	割合
1	設定している	149	90.3%
2	設定していない	16	9.7%

問7	よりよい交流に向け、意識的に取り組まれていること、次年度に向けて予定している取組等他の小学校の参考になる事例がありましたら、記入してください。
----	---

自由記述の回答
生活科を中心としてお互いの教員が顔と顔を合わせ、互惠性のあるものになるようにする。
生活科の学習のまとめの会に就学前児童を招待し、楽しんでもらうことで、1年生の自己有用感を高めるとともに就学前児童の入学への期待を高める。
総合的な学習の時間の中に就学時健康診断や半日入学の手伝いを位置づけ、主体的に考えながら活動を行えるようにしている。特に、半日入学では、事前に校区の保育園に行き、園児と交流することで、園児の好きな出し物ができるようにしている。
就学時検診の際、5年生が園児に本の読み聞かせをして優しく接することで、新学期からの交流が円滑に進められる。

Ⅲ 就学前施設の保育士・保育教諭・教職員と小学校教職員の交流について

Ⅲ-（1）入学予定児童（新1年生）に関する個別の情報について

問1	次年度入学予定の児童（新1年生）について、要録以外の方法で就学前施設からどのように情報を得ていますか（今後の予定含む）。	件数	割合
1	就学前施設から電話等により得る。	125	75.8%
2	就学前施設を訪問する。	138	83.6%
3	教職員同士の連絡会・懇談会等を実施する。	81	49.1%
4	特に行っていない。	0	0.0%
5	その他	12	7.3%

問2	問1の方法により、原則、どの範囲の就学前施設から情報を得ていますか（今後の予定含む）。	件数	割合
1	入学予定者が在籍する全ての就学前施設から情報を得ている。	77	46.7%
2	入学予定数が多い就学前施設のみから、情報を得ている。	73	44.2%
3	連絡があった就学前施設のみから、情報を得ている。	51	30.9%
4	就学支援シートが提出された幼児の在籍施設のみから、情報を得ている。	57	34.5%
5	その他	16	9.7%

問1・2 自由記述の回答
就学前施設に情報提供依頼の文書を郵送し、必要に応じて電話、訪問、連絡会等で情報を共有。
就学前健診・半日入学等の際に気にかかる児童がいる際は就学前施設に問合せをしている。
各就学前施設に懇談会の日程を周知し、都合があれば来てもらい、情報交換。

問3	問1の方法により、どのような情報を得ていますか（今後の予定含む）。	件数	割合
1	健康状態、食物アレルギー等健康に関する配慮事項	154	93.3%
2	友だちとの関わり方や人間関係	163	98.8%
3	家庭での様子、家庭の事情	158	95.8%
4	その他	21	12.7%

自由記述の回答
理解面、運動面、作業面での得意、不得意
得意なこと、困っていること

問4	就学前施設から送付された要録は幼児期の教育からの円滑な接続に向けて、校内においてどのように活用されていますか。	件数	割合
1	児童の生活面や集団生活の状況を把握し、指導・支援の参考にする。	139	84.2%
2	就学前施設での経年での児童の成長を把握し、指導・支援の参考にする。	97	58.8%
3	児童の心身の健康状態など、特に留意すべきことを把握し、指導・支援の参考にする。	142	86.1%
4	気になる児童の就学前の姿を確認し、指導・支援の参考にする。	147	89.1%
5	活用できていない。	2	1.2%
6	その他	5	3.0%

問5	問4で「6 活用できていない」と回答した学校はその理由を記入してください。
----	---------------------------------------

自由記述の回答
入学予定者全員に対しての聞き取り調査を行っており、ある程度の情報が事前につかめるため。また、各施設から送られてくる時期が揃っておらず、新1年生担任の入学準備時期とも重なるため、目を通す時間の確保が困難。
年度末・初めの業務が忙しい時期と重なるため、整理や学級ごとの仕分、内容の確認などが入学前・直後にはできていないのが実情。園によって要録の様式や送付時期も異なるため、整理の仕方も難しい。

問6	よりよい情報連携に向け、意識的に取り組まれていることなど、他の小学校の参考になる事例がありましたら、記入してください。また、要録の活用に向けた御提案がありましたら、記入してください。（例：就学前施設との情報連携のために独自の様式を用いている。）
----	--

自由記述の回答
<よりよい情報連携に向けた取組>
訪問及び電話連絡を通して、就学してくる幼児が通園している全園と連携をとり、クラス編成及び学級指導に活かすようにしている。
保幼小連携主任等が、入学前に幼稚園・保育園に訪問・聞き取りをし、クラス分けに生かしている。
形式的に書かれている要録よりも、指導者同士で連絡会を持った方が、生の声を聞くことができ、学校にとって必要な情報を得られる
年に3回、周辺の就学前施設との保幼小連絡会を行っている。授業参観や各園の取組、就学にむけて共通理解などと情報交換会を行っている。2月には、全園への訪問や電話連絡などでの情報の共有。
児童入学後に在籍していた園へ授業参観の案内を配送し、授業を公開し、その後園の教職員と懇談会を持つ。
就学前施設から聞き取った内容については、文書化し関係する教職員で情報共有をする。
保育園や幼稚園との人間関係づくりを積極的に行い、情報を得やすい環境を整える。
<要録の活用>
担任だけでなく、LD等通級指導教室担当教員やSSWも要録を見て、いろいろな教職員が入学児童の様子について把握し、指導に生かすようにしている。

Ⅲ－(2) 幼児期の育ちや学びからの円滑な接続に向けた取組について

問1	【スタートカリキュラム】幼児期の育ちや学びからの円滑な接続に向けて、1年生で取り組まれたことはありますか。	件数	割合
1	教室掲示の工夫、丁寧な板書、机の配置など、空間的な環境を整備する。	146	88.5%
2	異学年との関わり、全教職員の見守りなど、児童が安心できる人的な環境を整備する。	148	89.7%
3	就学前施設での活動を意識した取組を取り入れる(手遊び歌、読み聞かせ等)。	93	56.4%
4	10～15分単位に分けた短時間の時間割編成を行う。	56	33.9%
5	生活科等において合科的・関連的な指導を行う。	94	57.0%
6	実施していない	0	0.0%
7	その他	2	1.2%

問2	【入学後の情報交換】30年度の1年生児童について、卒園した就学前施設と話し合う機会等を持っていますか(予定含む)。 ※一部の就学前施設と行われている取組でもお答えください。	件数	割合
1	就学前施設の保育士・教職員(以下、先生)が小学校1年生の児童(卒園児)の授業等を見学する。	91	55.2%
2	教職員同士の連絡会・懇談会等を実施する。	58	35.2%
3	特に行っていない。	52	31.5%
4	その他	22	13.3%

自由記述の回答

気になる児童について、支援の仕方や対処方法等を就学前施設に相談している。

学校だよりを毎月、届けている。学校行事(入学式・卒業式・運動会・学習発表会)の案内をしている。

5月下旬に保幼小交流会を実施。入学後の児童の授業を参観した後、協議会懇談会を行い、情報共有している。

問3	【研修会等の実施】今年度、就学前施設の先生と小学校教職員の交流、連携を深める取組を実施しましたか(予定含む)。 ※一部の就学前施設と行われている取組でもお答えください。	件数	割合
1	就学前施設の先生と合同研修会(授業・保育研修等)を実施する。	15	9.1%
2	就学前施設との接続を意識した教育課程やカリキュラム等についての意見交換を行う。	17	10.3%
3	特に行っていない。	127	77.0%
4	その他	12	7.3%

自由記述の回答

地域の保育園、学校の管理職・教員で構成する「教育機関協働協議会」を年間3回実施。幼児・児童・生徒の課題を共通理解し、各教育機関の取組の方向性を話し合っている。

保幼小交流会・連絡会・保育参観、学校長面談等の情報交換を頻繁に行い、連携を進めている。

就学前施設の研究発表会(公開保育・研究協議会)に教職員が参加する。

問4	問2, 3で回答した取組を実施したことにより, どのような成果や効果がありましたか。	件数	割合
1	就学前施設の先生とのつながりが深まった。	60	36.4%
2	小学校の教育の内容や考え方を就学前施設の先生に伝えることができた。	65	39.4%
3	就学前施設の保育に対する小学校教職員の理解が深まった。	41	24.8%
4	就学前施設ならではの援助や関わり方が参考になった。	56	33.9%
5	就学前施設との接続を意識した教育課程やカリキュラムの改善につながった。	35	21.2%
6	特にない	7	4.2%
7	その他	7	4.2%

自由記述の回答

就学までに身についておきたいことなど共通理解をすることができた。

連絡会をもつことで新入学する一人一人の様子がわかり, これからの指導に役立てることができる。

問5	よりよい接続に向け, 意識的に取り組まれていることなど, 他の小学校の参考になる事例がありましたら, 記入してください。(例; 就学前も含めた子どもの成長の記録を蓄積する取組, 保護者から幼児期の様子を聞く<いずれも生活科の取組の場合も含む>)
----	--

自由記述の回答

<保護者に対して>

入学前アンケートを半日入学時に提出してもらい, 就学前施設で親しんでいた歌や遊びを把握したり, 不安に思っていることなどを知らせてもらったりしている。

入学説明会の時には保護者にスタートカリキュラムをすることをお知らせし, 半日入学の際には, 「ほっこり子育て広場」で保護者の安心を作るとともに, 入学してから, その取組に対するアンケートをとって, 意識を確認する。

保護者から生活科の学習の中で, 幼児期の様子を聞いたり, 写真等を見せてもらったりすることで, 児童の育ってきた環境を知ることができる。また親の願いについても聞くことができる。

早い段階で家庭訪問等を行い, 保護者から幼児期の様子を聞く。

<就学前施設に対して>

定期的な保幼小連絡会の実施。

1年担任が学校だよりなどをもって就学前施設を訪問し, 日々の様子を伝えている。

教職員が幼稚園へ出向き, 園児の様子や幼稚園教職員の動きを参観し, 交流する

【就学前施設】

就学前施設と小学校との連携・情報共有推進に向けた取組状況
調査結果

平成31年3月

就学前施設と小学校との連携・情報共有推進に向けた検討チーム会議

【備考】

- ・「複数回答可」と記載している設問については、選択肢の割合の合計が100%にならないことがあります。
- ・「問●で「〇〇する。」と回答した就学前施設にお聞きします。」と条件を付した設問について、条件に該当しない就学前施設が回答している場合があるため、条件に該当する施設数と有効回答数が合致しない場合があります。
- ・自由記述については、基本的には原文表記としていますが、公表に当たって、必要最低限の加筆・修正をしている場合があります。

概 要

施設種別	回答数	施設数	回答率
幼稚園	81	105	77.1%
市立幼稚園	15	15	100.0%
私立幼稚園	66	90	73.3%
認定こども園	18	34	52.9%
保育園（所）	120	246	48.8%
市営保育所	17	17	100.0%
民間保育園	103	229	45.0%
合 計	219	385	56.9%

I 卒園児の状況について

I 卒園児の状況について

問1 平成29年度の卒園児（平成30年3月の卒園児）は何名でしたか。

（有効回答数＝217）

合計	1施設当たりの平均	1施設当たりの最多
6,499 人	29.9 人	109 人

卒園児数	園児		該当施設	
	園児数	割合	施設数	割合
0人	0 人	0.0%	1	0.5%
1人～19人	967 人	14.9%	72	33.2%
20人～39人	2,672 人	41.1%	99	45.6%
40人～59人	1,001 人	15.4%	20	9.2%
60人～79人	1,312 人	20.2%	19	8.8%
80人～	547 人	8.4%	6	2.8%
合計	6,499 人	100.0%	217	100.0%

問2 平成29年度の卒園児（平成30年3月の卒園児）が入学した小学校は何校ありますか。

（有効回答数＝186）

小学校数	京都市内の小学校		京都市外の小学校	1施設当たりの合計
	市立小学校	私立・国立・その他小学校		
1施設当たりの平均	7.8 校	0.9 校	1.1 校	9.8 校
1施設当たりの最多	22 校	9 校	13 校	37 校

小学校数	京都市内の小学校				京都市外の小学校		1施設当たりの合計	
	市立小学校		私立・国立・その他					
	施設数	割合	施設数	割合	施設数	割合	施設数	割合
0校	2	1.1%	97	52.2%	101	54.3%	1	0.5%
1校	5	2.7%	57	30.6%	42	22.6%	3	1.6%
2校～9校	123	66.1%	32	17.2%	40	21.5%	107	57.5%
10校～19校	51	27.4%	0	0.0%	3	1.6%	58	31.2%
20校～29校	5	2.7%	0	0.0%	0	0.0%	16	8.6%
30校～	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	0.5%
合計	186	100.0%	186	100.0%	186	100.0%	186	100.0%

問3 平成29年度の卒園児（平成30年3月の卒園児）が入学した小学校のうち、最も卒園児が多い小学校の名前と卒園児の人数をお答えください。

（有効回答数＝216）

合計	1校の平均	1校の合計最多	1施設からの最多入学
2,456 人	20.6 人	62 人	50人

卒園児数	小学校		合計	
	校数	割合	園児数	割合
1人～9人	35 校	29.4%	236 人	9.6%
10人～19人	33 校	27.7%	491 人	20.0%
20人～29人	24 校	20.2%	576 人	23.5%
30人～39人	11 校	9.2%	370 人	15.1%
40人～	16 校	13.4%	783 人	31.9%
合計	119 校	100.0%	2,456 人	100.0%

Ⅱ 子どもたちの交流について

Ⅱ 子どもたちの交流について

問1 今年度、貴園の園児と小学校児童の交流を実施しましたか(予定含む)。以下から選択してください。
【複数回答可】

(有効回答数=215)

選択肢	回答数	割合
小学校児童が貴園を訪問する。	95	44.2%
貴園の園児が小学校を訪問する。	119	55.3%
実施していない。	51	23.7%

問2 問1で「小学校児童が貴園を訪問する。」と回答した就学前施設にお聞きします。どのような交流を行いましたか(予定含む)。以下から選択してください。【複数回答可】

(有効回答数=96※)

選択肢	回答数	割合
小学校児童が貴園の運動会に参加又は参観する。	30	31.3%
小学校児童が貴園の生活発表会(劇、歌の発表)に参加又は参観する。	13	13.5%
小学校児童が貴園の交流会に参加する。	13	13.5%
小学校児童が貴園の教育・保育に参加する。	30	31.3%
その他(自由記述)	49	51.0%

※ 問1で「小学校児童が貴園を訪問する。」以外を選択した施設の回答もあるため、回答数が同数とはならない。

その他(自由記述)の主な回答

- ・年長児の「はなの苗屋さん」へ小学生を招待したり、小学生が園の砂場や用具を借りて、図工科の砂場遊びを実施したりした。
- ・授業での町探検に、小学2年生が来所し、保育所見学を行い、その後保育士が小学生からインタビューを受ける。
- ・毎年、小学3年生に対して、夏休みに農園や川遊びができる1日を設けて招待している。
- ・赤米作り、収穫した赤米を使って幼稚園でお餅つき相互交流。
- ・保育園の夏祭りやバザーに卒園児が参加して一緒にあそぶ。
- ・卒園児を中心に5年生が20名～25名ほど当園を訪問し、年長組にロックソーランを踊って見せてくれる。当園の年長組はお礼に歌などを披露する。
- ・卒園児リレーを実施。
- ・園芸クラブの生徒が毎年花の苗を植え込んだプランターをプレゼントしてくれる。
- ・おおよそ月2回の絵本貸出し日に借りに来てくれる。
- ・6年生が取り組んでいる「アルミ缶収益を福祉施設に品物として贈る」という取り組み。

問3 問1で「貴園の園児が小学校を訪問する。」と回答した就学前施設にお聞きします。どのような交流を行いましたか(予定含む)。以下から選択してください。【複数回答可】

(有効回答数=121※)

選択肢	回答数	割合
貴園の園児が小学校の運動会に参加又は参観する。	30	24.8%
貴園の園児が小学校の学習発表会(劇、歌の発表)に参加又は参観する。	41	33.9%
貴園の園児が小学校での栽培・収穫体験に参加する。	3	2.5%
貴園の園児が小学校の交流給食に参加する。	23	19.0%
貴園の園児が小学校の授業に参加する。	46	38.0%
その他(自由記述)	57	47.1%

※ 問1で「貴園の園児が小学校を訪問する。」以外を選択した施設の回答もあるため、回答数が同数とはならない。

その他(自由記述)の主な回答

- ・園児が小学校に訪問し、教室にて小学校教諭より学校生活に向けて話を聞いたり、園生活と学校生活の違いを体験する。
- ・一年生のクラスに入り、給食の前にランドセルを背負わせてもらったり、用品・道具等を見せてもらったり、グループの子らに紹介してもらい小学校生活を個別で教えてもらう。
- ・ふれあい交流会と称し、近隣の保育園、幼稚園児と一緒に、年長児が参加している。
- ・園児が小学校のあそびのフェスタ(児童が作成したおもちゃゲームで遊ぶ)に参加する。
- ・地域の園3園と1年生の主催の秋祭りに参加する。
- ・災害時避難訓練で小学校へ避難し、校長先生にお話しをして頂いた。
- ・小学校の運動場で運動会をする。運動会前の活動期間に1週間ほど運動場を利用させてもらう。
- ・1年生が音楽や国語の授業でとりくんだ演奏・歌・詩の朗読などの舞台発表を見る。
- ・小学校PTA主催の地域行事に参加するため、地域の小学校へ出向く。
- ・小学校のプールを低水位の期間に利用させてもらう。
- ・健康診断
- ・地域の公園のごみゼロ活動

問4 問1で「小学校児童が就学前施設を訪問する。」「貴園の園児が小学校を訪問する。」と回答した就学前施設にお聞きします。交流を実施したことにより、園児にどのような変容が見られましたか。下記にご記入ください。

(有効回答数＝155※)

※ 問1で「小学校児童が就学前施設を訪問する。」「貴園の園児が小学校を訪問する。」以外を選択した施設の回答もある。

件数	216 件
主な回答	
・小学生にやさしく丁寧にかかわってもらったことにより、小学生に対する憧れや就学への期待が膨らんでいる。 ・小学生が運動会に参加して小学生のスピード感がある真剣な走りは本当に素敵で在園児の子どもたちの憧れにもなっています。 ・園児にとっては、いろいろな話を聞いてもらったり、鉄棒を見せてもらうなど、あこがれの存在となった。 ・訪問した小学校に行かない子どもからも「この小学校に行きたい」という声が聞かれるほど、小学校に対して親しみ、期待を持つ気持ちを感じられた。 ・就学前の児童が一度いったことのある場所として安心して入学式を迎えることができた。 ・進学する園児が、また大きくなったらぼくたちも次の園児にしてあげようという意識の醸成につながっていると考えられる。 ・小学校生活の見通し、また学校施設での楽しみなどが意識できるようになっています。 ・学習発表会を見せていただくことで、自分たちの生活発表会へ臨む意識が変化した。 ・どこの小学校に就学するのか意識して話すようになった。 ・小学校の施設や先生たちに対する親近感、小学校のお兄さんやお姉さんは優しくて親切だという安心感を持つ。 ・教室や体育館で1年生と交流を通して、小学校を身近に感じている様子があった。 ・相互に交流会を実施し、その中に卒園生もいたため親近感を持つことが出来た。 ・昨年まで一緒に遊んでいた、お兄ちゃんやお姉ちゃんが楽しいことをしてくれて、小学校に行くのが楽しみになったと思います。小学校に行けたことをとても喜んでいました。 ・昨年、保育園で一緒に生活していた先輩が、小学校で勉強している姿は頼もしく映ったようで、自分の小学校での姿を具体的に想像することができたようだった。 ・1年生の生徒さんから年長児に小学校の学習発表にご招待状が届き、子どもたちも楽しみにしていました。時期的にも小学校の就学前健診の頃だったため子どもたちも小学校への関心も高く、発表会を喜んで見学していた。 ・幼児は異年齢保育を実施するようになり、特に、小学校に行った友達との付き合い方が深い為お互い懐かしみ、再会を喜び合う姿がある。 ・小学校の規模の大きさや人数に圧倒され、少し不安を感じる子もいる。	

問5 問1で「実施していない。」と回答した就学前施設にお聞きします。実施していない理由を以下から選択してください。【複数回答可】

(有効回答数＝50)

選択肢	回答数	割合
どこの小学校と交流をすればよいのかわからない。	5	10.0%
小学校とのつながりが無い(きっかけがない)。	21	42.0%
交流の時間(事前準備や振り返り含む)の確保が難しい。	20	40.0%
その他(自由記述)	15	30.0%

その他(自由記述)の主な回答
・10年ほど前は、進学前3学期に訪問したり、園に5年生が来て紙芝居をしてくれたりと交流がありましたが、現在は途絶えています。 ・交流していた小学校さんが、統合の為、移転されて、遠方になってしまったので、実施できなかった。 ・以前は交流があり、文化の集い等にお誘いがあったのですが、校長先生がかわり、なくなりました。小学校を知る良い機会でしたので、再開できればと思っています。 ・小学校と保育園との日程調整、時間調整が難しい事とどの子どもにも就学先との交流機会を公平に持つことの難しさを実感しています。 ・小学校に連携のお願いする電話をかけたが、遅すぎたため、すでに行事等がすべて終わっているとのことでした。 ・小学校からの申し出がないと、こちらから交流を働きかけてはいけないと思った。 ・学区内の近隣保育園が既に該当学区小学校との交流を実施されている為、複数園の対応は困難ではと判断し、問い合わせをしていない。

Ⅲ 就学前施設の保育士・保育教諭・教職員と小学校教職員の交流について

Ⅲ 就学前施設の保育士・保育教諭・教職員と小学校教職員の交流について

問1 【入学前】平成31年度に小学校に入学予定の児童(新1年生)について、貴園から小学校に対し、どのように情報をお伝えしていますか(今後の予定含む)。以下から選択してください。【複数回答可】

(有効回答数=217)

選択肢	回答数	割合
電話やメール等により、小学校へ情報を伝える。	106	48.8%
貴園の先生が小学校を訪問する。	99	45.6%
小学校の先生が貴園を訪問する。	146	67.3%
貴園と小学校の先生同士の連絡会・懇談会等を実施する。	73	33.6%
その他(自由記述)	40	18.4%
特に行っていない。	8	3.7%

その他(自由記述)の主な回答

・就学支援シートを提出された園児については、園に来ていただき保育の中で子どもの様子を見て頂いたり、作品を見て頂いたり、情報共有の時間を設けている。
 ・保護者からの希望で小学校の先生が保育園での過ごし方や支援の方法を見学に来られる場合もある。
 ・学区の小学校、児童館、民生児童委員、保健センター、保育園(所)、学童保育所の代表が集まって、ネットワーク会議を年4回行っている中で、その場で学校との情報交換をしています。
 ・近隣学区内の各保育園、幼稚園、小学校の先生同士の連絡会にて情報を伝える。
 ・幼稚園も参加して保幼小の会議を持っている。地域のイベント(音楽会、人形劇)などに一緒に参加している。
 ・園児の進学先が複数に渡るため、すべての小学校と同レベルで情報交換が行われるとは限らないが、可能な限り情報交換は行う。先生同士の相互訪問もある。
 ・園児の実態に応じて必要であれば小学校を訪問することもある。
 ・保育園はいつも人手が不足しているので、年長のクラス担任に時間をつくってあげるのが大変難しいです。
 ・校長と園長との連携も少しずつではあるが出来たので、園の担任と小学校の先生との交流を深めたい。

問2 【入学後】平成30年度の卒園児について、入学した小学校と話し合う機会等を持っていますか(予定含む)。以下から選択してください。【複数回答可】

(有効回答数=212)

選択肢	回答数	割合
貴園の先生が小学校1年生の児童(卒園児)の授業等を見学する。	151	71.2%
貴園と小学校の先生同士の連絡会・懇談会等を実施する	69	32.5%
その他(自由記述)	34	16.0%
特に行っていない。	36	17.0%

その他(自由記述)の主な回答

・年度当初、なめらかなスタートができるように、本園教諭による園での「親しみゲーム」や「遊び」を取り入れた朝の出前授業を毎年小学校で行っている。また、1学期を中心に毎週金曜日に、その週の卒園児の様子を交流する中で、環境構成や援助の仕方についてお互いの理解を深められるように努めている。
 ・運動会、発表会、授業参観等可能なものは参加するようにしている。ただし遠距離校(市域以外)は出来ない。
 ・小学校の行事等(懇談、参観、運動会他)で、卒園児の姿を見て担任と成長を語り合う。
 ・地域のネットワーク会議で近況報告をしあう。
 ・独自に行っているネット会議(小学校・保育所・幼稚園・児童館・民生児童委員・保健師等参加)で情報交換を行っている。
 ・当学区では教育機関の会議や社会福祉協議会関係の会議や行事などで、顔を合わせる機会が多い。
 ・授業参観等のご案内はいただくが、保育時間と重なっているので、なかなか参加できていない。
 ・小学校から授業参観のご案内をいただくが忙しくて参加できない。
 ・小学校からの案内があって初めて実施できる。保育園は受け身だとは思いますが、案内がないと小学校とは交流しにくい。

問3 今年度、貴園の先生と小学校の先生の交流、連携を深める取組を実施しましたか(予定含む)。以下から選択してください。【複数回答可】

(有効回答数=209)

選択肢	回答数	割合
貴園と小学校の先生の合同研修会（授業・保育研修等）を実施する。	29	13.9%
貴園における教育・保育の内容や小学校における教育課程・カリキュラム等についての意見交換を行う。	44	21.1%
その他（自由記述）	29	13.9%
特に行っていない。	127	60.8%

その他（自由記述）の主な回答
・本年度も、同一日に研究保育・授業を行い、事後研修も合同参加で実施し互いの交流を深めた。 ・学区の幼稚園、小学校、中学校の合同研修会を実施 ・小学校の公開研究発表会への職員の参加 ・園児・児童の交流活動の事前打ち合わせだけでなく、事後の話し合いを通して互いの教育観や子ども観等について理解を深める。 ・年に3～4回、地域の保育園、小学校、中学校の園長・校長が集まり、情報交換と地域としてどのように子どもたちを見守り、育んでいくかなどの課題の話し合い。 ・学校運営協議会、地域各種団体懇親研修会に園長が出席。近隣小学校の校長、教頭、教務主任、PTAなどと情報と意見を交わす。また地域中学校、社協、警察署、消防署、老人会、民生委などとも交流を図る。 ・主に年長児の保護者からの就学相談を受け、入学予定の小学校の休日参観や運動会などを参観できるよう学校長に了解をとったり、保護者と管理職との面談をセッティングしたりした。 ・参観いただける行事、公開できる保育、研究保育等の日程を年度の早いうちに一覧にして渡す。 ・保育体験（職場体験）を実施するにあたって、生徒向けの説明を保育士が小学校へ出向き授業で行う。その際に事前打ち合わせを行ったり情報交換などを行い連携を深めた。 ・年1回年長組保護者とともに就学前学習会として、小学校の先生や退職した先生に小学校に向けて何を大事に就学前考えることや小学校に上がってからのことを話してもらっている。 ・子供の性格や様子などを伝えあう場を設ける。 ・地域の行事が盛んなので地域行事（夏祭り・七夕の会・防災訓練）等での交流があります。 ・一部の小学校のおたよりをいただいている。

問4 交流を実施したことにより、どのような成果や効果がありましたか。以下から選択してください。【複数回答可】

(有効回答数=144)

選択肢	回答数	割合
小学校の先生とのつながりが深まった。	73	50.7%
貴園の教育・保育の内容や考え方を小学校の先生に伝えることができた。	63	43.8%
小学校の教育の内容や考え方について、貴園の先生の理解が深まった。	51	35.4%
小学校ならではの教育・指導方法が参考になった。	23	16.0%
小学校との接続を意識した教育・保育の改善につながった。	45	31.3%
その他（自由記述）	13	9.0%
特にない。	24	16.7%

その他（自由記述）の主な回答
・一人ひとりのこどもたちの様子、具体的に伝えることが出来安心はできた。 ・園児の情報について正確に伝えることができた。 ・気になる子どもに対しての、状況の共有をすることで、その子のフォローの確約をすることができた。 ・進学した児童の就学前の様子や保育士の関わり方を具体的に伝えることができ、また就学後の様子などを聞き今後の保育の参考にすることができた。 ・この機会を一過性のものに終わらせないために今後も繋がりを深めたい。 ・今年はじめて行事に参加させてもらったのでこれを機に連絡を取り合い小学校の先生とのつながりを大切にしたい。 ・支援の必要な園児とその保護者に安心感を与えることができた。 ・地域の絆が深まる。

IV 小学校への円滑な接続に向けた取組について

IV 小学校への円滑な接続に向けた取組について

問1 特に年長児の教育課程の編成・実践や全体的な計画及び指導計画の作成・実践において、幼児期の育ちや学びを小学校入学後の生活や学習につなげることを、どの程度意識していますか。以下から、該当するものを1つ選択してください。

(有効回答数=214)

選択肢	回答数	割合
非常に意識している。	72	33.6%
ある程度意識している。	127	59.3%
あまり意識していない。	14	6.5%
意識していない。	1	0.5%

問2 小学校入学後の生活や学習につながることを意識して具体的に実践している取組があれば、ご記入ください。(自由記述)

(有効回答数=166)

件数	354 件
主な回答	
・規則正しい生活習慣の確立に向けた見直し、箸や鉛筆の持ち方の指導、ハンカチやティッシュの使用、時間を意識して見通しを持って生活する。 ・本園の過ごし方を時間で区切り、時間割のような形で過ごさせる。 ・給食で同じ食材、メニューを食することへの対応。 ・年中・年長児はお当番活動を取り入れ、小学校の日直のような活動を行っている。年長児は、制作活動やカードゲームなど、着席してのあそびや、保育者の話をみんなで聞く機会を意識的に設定するようにしている。 ・3歳児後半より、お昼寝をなくしていき生活リズムを整えたり、運動を取り入れることで小学校での学習時間に元気に参加できる体と心づくりをする。 ・数字の1から10までの読み書きや、自分の名前の読み書きなど楽しんで取り組めるように簡単なテキストを自作して実施している。 ・「あいうえお表」を貼って、字に興味を持てるようにしています。遊びの中で、数や文字に興味が出るようにしています。 ・子どもの自由な発想をもとに遊びを広げる関わり。話し合いの中で自分の意見を伝え、相手の意見を聞き、物事を解決していく力を引き出す関わり。 ・今の学びがどのように育っていくのかを見通した教育として3つの自立①学びの自立②生活上の自立③精神的な自立をめざし「教育活動」として人とのかかわり(自分・他人・集団)・ものとのかかわり(自然・身の回り)保育士の方向づけた課題についてクラス・グループでやり遂げる。 ・知ること学ぶことに十分興味を持って小学校生活に入れるよう、自ら選んだり考えたりできる環境にしている。 ・正しい姿勢で椅子に座り話を聞くことを意識し、自分の意見を言うときは手を挙げて発言するようにしている。時間の感覚を身につけていけるように、時計を意識できるようにしている。 ・鍵盤ハーモニカやリコーダー、ダンス等の取り組みに力を入れている。 ・小さな目標を持って仲間と相談して取り組み学び合う体験をすることを大切にしています。自らイメージしたことを表現する力を育むことを大切にしています。 ・登園時、各保育室前まで保護者が園児を送ってきているが、正門を入ったところで保護者には見送ってもらうよう働きかける。(通学は子どものみとなるためわずかな距離だが物理的に心理的にも離れる機会を設ける。) ・保護者に対しては、クラス懇談会の中で、小学校生活に対しての課題等話合っている。	

問3 貴園において、小学校との連携・接続の取組を中心となって行う担当者はどなたですか。以下から選択してください。【複数回答可】

(有効回答数=215)

選択肢	回答数	割合
園長	127	59.1%
副園長	39	18.1%
主任・主幹	93	43.3%
年長担任	154	71.6%
特に決まってない。	6	2.8%
その他(自由記述)	7	3.3%

その他(自由記述)の回答
・副園長 ・副主幹保育教諭 ・指導保育教諭 ・事務員 ・連携担当 ・複数人が関わる

問4 今年度(平成30年度)の新入園児に使用する予定の要録の様式をお答えください。【複数回答可】

	幼稚園		認定こども園		保育所		全体	
有効回答数	80		18		114		212	
要録の種類	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
幼稚園幼児指導要録	86	— ※3	1	5.6%	0	0.0%	87	41.0%
国様式(旧様式) ※1	31	38.8%	0	0.0%	0	0.0%	31	14.6%
国様式(新様式) ※2	52	65.0%	1	5.6%	0	0.0%	53	25.0%
独自様式	3	3.8%	0	0.0%	0	0.0%	3	1.4%
幼保連携型認定こども園園児指導要録	0	0.0%	13	72.2%	1	0.9%	14	6.6%
国様式(旧様式)	0	0.0%	2	11.1%	0	0.0%	2	0.9%
国様式(新様式)	0	0.0%	10	55.6%	1	0.9%	11	5.2%
独自様式	0	0.0%	1	5.6%	0	0.0%	1	0.5%
保育所児童保育要録	0	0.0%	4	22.2%	115	— ※3	119	56.1%
国様式(旧様式)	0	0.0%	0	0.0%	28	24.6%	28	13.2%
国様式(新様式)	0	0.0%	1	5.6%	26	22.8%	27	12.7%
京都市市営保育所の様式	0	0.0%	2	11.1%	57	50.0%	59	27.8%
独自様式	0	0.0%	1	5.6%	4	3.5%	5	2.4%

※1 平成29年3月改正前の様式, ※2 平成29年3月改正後の様式

※3 複数回答があるため, 合計割合が100%にならない。

問5 要録をどのように作成していますか。以下から選択してください。【複数回答可】

(有効回答数=217)

選択肢	回答数	割合
ワード・エクセルを使用して, 作成している。	87	40.1%
要録作成の専用ソフトを使用して, 作成している。	17	7.8%
手書きで作成している。	121	55.8%
その他(自由記述)	3	1.4%

その他(自由記述)の回答

- ・業務システム
- ・ワード・エクセルと手書きを併用

問6 貴園から送付した要録は幼児期からの円滑な接続に向けて, 小学校において活用されていると思いますか。以下から, 該当するものを1つ選択してください。

(有効回答数=212)

選択肢	回答数	割合
十分活用されていると思う。	6	2.8%
ある程度活用されていると思う。	91	42.9%
あまり活用されていないと思う。	76	35.8%
活用されていないと思う。	13	6.1%
その他(自由記述)	26	12.3%

その他(自由記述)の主な回答

- ・そのために情報交換を行っているため, 十分に活用されていると思いたい。
- ・小学校との引継ぎのときに要録を見ながら子どもの様子を伝えている。その時には必ず目を通していただいている。
- ・小学校へ渡す時期が遅くクラス編成への配慮を考える時間が足りないと感じる。
- ・要録より入学前の聞きとり又は支援シートの方が活用されているのではと思う。
- ・活用されているのか, 活用されていないのか, 小学校からの情報が無いので解らない。
- ・活用されているのかどうか, よくつかめない。学校によって違いがあるようにも感じる。
- ・わかりません。すべてを書こうと思うと大変時間がかかるため, 簡潔に書いて何かあればご連絡くださいと申し添えています。
- ・個々に聞く情報からでは, あまり活用されていないように感じますが, 各学校や担任の先生または個別児童に対する困り感によって活用の度合いに違いがあるようにも感じます。
- ・小学校経験もあったことから, 振り返ってみると, 組み分けに活用される場合が多いが, その後は各担任の意識で活用されていると思われる。

問7 問6でそう思われた理由について、ご記入ください。(自由記述)

(有効回答数=184)

件数	201 件
主な回答	
【十分活用されていると思う。】 ・進学先の小学校との交流で事前把握のために非常に参考になるとの報告を受けているから。 ・苦労して作成した要録なので、十分活用されていると信じたい。 ・小学校が設定された懇談会や連絡会に出席した際に、卒園児の様子をきちんと把握していただいた内容で話ができています。	
【ある程度活用されていると思う。】 ・幼小の連絡会等で、要録では書ききれない情報については直に伝えている。要録は必要な時には参照されていると聞いている。 ・幼保小交流で、先生方の報告会で子と話をする時、要録を参考にしていると学校の先生から声が聞けた。 ・実際に小学校の参観や運動会を見に行った時や、卒園児の様子を小学校の先生から聞いたときに、要録や子どもの様子を口頭で伝えたことが学校生活で活かされているなど感じるため。 ・要録以外にも、口頭で一人一人の子どもの今までの育ちの経過や課題について詳細に伝えている。 ・進学先がたくさんあるので全て確認できるわけではないが、地域の小学校とは情報交換を頻繁に行いながら活用されていると感じている。 ・活用されるようお願いして手渡しています。	
【あまり活用されていないと思う。】 ・活用されていないように聞くため。 ・じっくり見れないということを小学校の先生から直接聞いたため。 ・要録送付後の時期の学校との面談で、訪問される教師が要録を読んだ上での訪問ではない事があった。 ・個々の園児の状況は、直接対面しての話し合いの方がより伝わると思われるため。 ・小学校の先生と連絡を取り合わないのだから。 ・指導要録について、話し合う機会がないので、活用されているか実感がない。 ・保育要録がどうやって活用されているのかあまり聞いたことがない。どう活用され小学校生活やクラス編成立案時等に役立っているのか保育現場も知ることによって要録の書き方を考えるヒントになるので情報交流の機会があると有り難い。 ・小学校の先生方も忙しく、精一杯の中、要録よりも、引継ぎの際の話や、支援シートを参考にすることで、要録自体は何かあった時に初めてじっくり読むということになっているように思う。	
【活用されていないと思う。】 ・入学前の子どもの指導要録を読んでも理解しにくいのではないかと思います。時間も膨大にしているので不可能だと思います。 ・学校側では手渡す時期が遅く、読んでいる暇がないと聞いた。開示する必要性もあるため、細かいところまで書きにくい。就学支援シートの方がより具体的に伝わり、利用してもらえていると感じる。	
【その他】 ・入学後の子どもの様子等知る機会が少ないため、個々の学校生活に要録が活用されているかどうかかわからない。 ・卒園児の個別の状況について、小学校と意見を交わす機会がほとんどないため。	

問8 要録の記載や取扱い等について心がけている点や、要録の様式や記載方法、取扱いに関するご提案等があれば、ご記入ください。(自由記述)

(有効回答数=134)

件数	172 件
主な回答	
【心がけている点】 ・幼稚園での子どもの成長した点や長所、個々の子どもに応じた手立てなど、小学校の先生にとってもわかりやすく、就学後の子どもへのかかわり方の参考になるような記述を心掛けている。 ・当該児の全体像が長所とともに少しでも具体的にイメージしやすいように、エピソードも交えて記入する。 ・どのような援助や環境構成が、その子の育ちにつながったかを記述するようにしている。 ・就学後、クラス担任が困ったときには見ることもあるとお聞きしているので、そのような時に役立つように、エピソードを加えて、得意なこと、好きなこと、手助けがあればできることなどを書くように心がけています。 ・取扱いに十分な注意が必要なため、あえて手書きの形態をとっている。 ・その子の育ちがわかるように要点を簡潔に記載することを心掛けている。しかし、簡潔がゆえに十分に伝わらないことや、同じ文言でも幼稚園と小学校とでは受け止めや理解が異なることもある。幼稚園の思いが十分に伝わるよう、要録を渡すときに小学校の先生とお会いして補足説明(エピソードなど)を加えている。 ・要録の記載に関しては、詳細に記載すると小学校の先生のご負担になるので、なるべく分かりやすく・読みやすい様に心がけている。 ・要録では気に掛けいただきたい園児を把握していただくことが難しいように感じるので、こちらから小学校へ連絡を入れるようにしている。	
【提案等】 ・要録は個人情報でもあるので、小学校に送付後要録内容を確認していただけたら園にお知らせいただければ安心。 ・5歳児に特化し、それ以前の年度を簡素化したい。保育士が保育園で勤務している時間は常に園児もいるので、少しでも事務仕事を減らし、保育に集中させたい。 ・学校側がそこまで知りたいと思っているのか疑問。もっと簡素化した様式でよいと思う。より詳しい事を知りたいければ、直接連絡を取り合う方が有効だと感じる。 ・小学校施設の要録の書式の共通化に向けて、一歩進めましょう！ ・様式が書きにくく保育園によっても違うので統一してほしいです。 ・園から伝えたいことと小学校が求めている事の間に温度差があり、園でも年度末の忙しい時に作成するので、小学校が活用されるような項目にしてもらえればいいのではないのでしょうか。 ・要録に記載する内容や年長児の10の姿を見据えた書き方について、また、小学校の先生方にとって解りやすく入学後の生活に反映してもらえるような内容にするための、研修をしたいと考えている。 入学後要録をもとに実際の子どもの姿を含めて担任の先生と懇談できる機会が、どこの学校ともできるシステムの構築を願います。 ・学校長等だけでなく、新担任まで、しっかりと要録を伝えて欲しい。	

Ⅴ 就学前施設から小学校へのよりよい接続に向けて

Ⅴ 就学前施設から小学校へのよりよい接続に向けて

問1 上記の質問項目において、すでにお答えいただいた取組以外で、幼児期の学びと育ちの記録を行う取組など、就学前施設から小学校へのよりよい接続に向け、貴園で意識的に取り組まれている事例がありましたら、ご記入ください。(自由記述)

(有効回答数=86)

件数	109 件
主な回答	
【定期的な交流、情報交換】 ・発達に課題のある子どもを中心に、お互い管理職が小学校や幼稚園に来て、入学前の幼稚園の様子や入学後の子どもの様子を情報交換をして、子どもが安心して小学校生活が送れるようにしている。 ・相互の人事交流（1週間程度から） ・小中の校長とは定期的に話し合いを持っている。難しい点は小学校区内下あるいは中学校区内に保育園の数が多いため保育園間の調整が難しい。 ・要録以外に園児の情報交換する場を設けてより良い支援、関わりに繋げている。	
【連絡会、連携会議】 ・定期的に保幼小連絡会をもち、年間を通しての取組や取組後の振り返りを行い、成果や課題を共有している。 ・保幼小連携が充実しており、小学校、幼稚園、こども園の三者が共通理解のもと子どもの育ちを考えて行くことができ充実していると思う。連携会議では、それぞれの立場から見方の違う意見を聞くことができ保育士としても良い学びの場となっている。	
【地域等との交流】 ・こども園から小学校へスムーズに移行できるよう 学童保育（児童館）の子ども達との交流の場を月1回設け、小学校生活をより身近なものとして受け入れられるよう取り組んでいる。 ・色々な地域行事にも積極的に参加している。	
【就学を意識した取組】 ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点に（特に「自立心」の視点に）エピソード研修を積み重ね、保育の見直しや充実を図ることで、小学校へ「育ちをつなぐ」ことを意識している。	
【独自の記録】 ・毎月発行しているクラスだよりで、保護者に子どもの遊びの姿の中から育ちが伝わるように写真をもとに作成している。その手紙を小学校にも届け回覧していただくようにしている。 ・毎月発行している園だよりに子どもの姿のエピソードを掲載している。子どもの育ちや気づき、学びなど、担任が工夫して記載している。特に5歳児のエピソードには「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」に近い内容である。その園だよりを地域の公立小学校に送付している。 ・ラーニングストーリーという子どもの学びと育ちの記録をご家庭と共有しています。写真とその時に育っている力などを記録したものを持ち帰り、ご家庭での様子等をコメントして頂いています。見えにくい育ちや力を見えるようにすることで保護者の方も幼児教育に目を向けられ、子どもへ認め言葉かけも増えています。 ・「育ちの記録」という「その子らしさを大切に」する視点で、その子が保育園でどうやってその子らしく過ごしているか、成長しているかを記録した文章を、乳児クラスは年1回、幼児クラスは年2回発行している。保護者にもコメントを頂き一度返却して頂き、卒園時にすべての記録をお返ししている。	
【保護者との情報交換】 ・就学後の保護者の方の相談に乗れるように、園時代から継続した臨床心理士の相談場面を確保している。	
【エピソード、研究保育】 ・「思考力の芽生え」の姿を ①ものにむきあってどうしたらいいかなと試したり考えたりする姿 ②人とかかわりの中で思いを巡らし考え、新しい考えを生み出す喜びを味わう姿の2つに定義し、エピソード収集や研究保育を実施してきた。	
【園内で意見交換】 ・小学校に行っても人間関係でつまづかないよう、園では友達関係のトラブルなどをしっかりと最後まで教職員全員で見守るようにしています。そのため、週一回の職員会議では、情報を共有するよう努めています。	
【行事や授業等の見学、参加】 ・管理職をはじめとする教職員同士のコミュニケーションなど意識し、できるだけ小学校へ出向くようにしている。 ・小学校から入学式や運動会、学習発表会、休日参観等の案内が届いた場合、できるだけ参加、参列させて頂いています。	
【就学支援シート】 ・就学支援シートを配布する際、支援シートの概要や目的、小学校へのスムーズな移行のために保護者の方に理解をいただき記入してもらえよう、毎年、説明会という場を設けている。	

【要録を直接渡す，直接話す】

- ・必ず，直接小学校に出向いて，子どもの姿を伝えるようにしている。
- ・地域の小学校とは連携が密に取れているが，少し離れた小学校になると連携が取りにくい。

【就学前検診】

- ・就学時検診で関わってくれる５年生との交流を検診直前に計画している。

【行事や授業等の見学，参加】

- ・交流保育や運動会などの行事に校長先生自ら出向いていただくことを大切にし，感謝の気持ちを伝えるようにする。

【就学前懇談会】

- ・乳幼児期の今に，どのようなことを意識して子育てに向かえば良いのか。ということを保護者に向けても意識できる機会をと，「就学前懇談会」をおこなっています。
- ・年長児クラスの保護者対象に，小学校の先生に来ていただいて「就学に向けての懇談会」を実施

【公開保育】

- ・卒園児が入学する小学校に公開保育のご案内を送付し，子どもの様子を見ていただき，その後，一人ひとりの子ども，家庭状況や保護者の様子などを伝えている。
- ・地域に保育を公開してその後，小学校の先生，地域の就学前施設の先生と研究協議をしている，

【その他】

- ・小学校から学校便りが送られてくるので，保育園からも保育園だよりを送ろうかとも考えている。
- ・保幼小中連携をもっと深めて，ある程度制度化したうえで様々な取り組みを継続的に行うべきと考えている。
- ・小学校に入学してから小学校側からの働きかけが必要。

問2 その他、就学前施設から小学校へのよりよい接続に向け、ご提案等がありましたら、ご記入ください。（自由記述）

（有効回答数＝98）

件数	119 件
主な回答	
【職員同士の交流、情報交換】 ・子どもを中心において語ることが私たち教師の楽しみなのです。「幼稚園（小学校）ってそんなことしてるんだ」「自分たちの教育のことを分かったもらえた、しっかり伝えられてよかった」などの積み重ねが京都市全体に広がっていくことがよりよい接続の一步になるはずです。 ・幼小交流において、小学校の先生と児童が主になって進行する交流だけでなく、幼稚園の先生が主になって進行するひと時ももちながら交流を進めることで、園児も小学生も安心して触れ合いながら楽しみ、互いにより親しみを感じられると考える。 ・もっと気軽に小学校との交流ができたり、学習会などが共にできると、自然な形で情報の共有や互いの教育・保育の内容が分かりあえるのではないかなと思う。 ・小学校との接続に欠かせないことは職員関係だと思えます。やはり職員が仲良くなることでより良い接続になると思えます。	
【研修への参加】 ・小学校と就学前施設との教育時間が違う中で、お互いの教職員が忌憚なく意見交換できる時間を捻出し、就学前の教育について理解を深める機会が必要だと感じる。 ・小学校と合同研修やカリキュラム検討など連携を取りたいと思っていますが、どのようにすればよいかわかりません。実践されているところのおはなしなどぜひお聞きしたいと思っています。 ・園と小学校とでは、まだまだ子どもたちへの関わり方の違いは大きいと感じる。指針や教育要領がともに改定された意図を、垣根を超えた研修や勉強会などで現場レベルでも交流していく必要があるとおもいます。	
【連絡会、連携会議】 ・保幼小中の協議会があれば尚いいと思う。	
【ネットワークづくり】 ・当学区には、学区の子育て支援ネットワーク会議が機能していて、入園前の児童館での姿、卒園後の学童保育の様子など、特に気になる家庭や支援が必要な子どもについて、情報の共有がなされています。できればこの輪の中に小学校も入っていただけると有意義なのになぁといつも話しています。 ・卒園児が多く的小学校に入学するため、一人ひとりについての申し送りを丁寧に行うことは非常に難しいですが、保育所児童保育要録には書ききれない内容について、お知らせしておきたいと思うこともあります。そのような時に、お互いに、気軽に聞いたり伝えたりすることができるようなネットワーク作りは必要だと思います。	
【連携の充実】 ・これからも幼小の連携を深めていきたい。 ・一人ひとりの子ども達のその子らしさが大切にされ、主体的な学びの中、成長していく環境を願っております。小学校や関係各所との連携を大切に共に考えさせて頂きたいと思っております。	
【保護者交流】 ・学校と保育園では保護者対応が違うので、保護者会等で先輩保護者より心構えを話してもらおう。	
【カリキュラムの連携】 ・カリキュラムをつなげていくことや、個に応じた指導を継続することがよりよい接続になると考えています。	
【職員の行事や授業等の見学】 ・相互参観により指導の特性と指導者の関わりを理解することを進めたい。 ・小学校側から事前に就学前施設に向けて学校訪問可能日程を教えて頂けたら、訪問しやすく、その時に学校の先生との繋がりが持てれば役に立つのではないかなと思います。 ・就学児検診以外にも就学先の学校へ訪問できる機会があれば良いと思う。	
【子供の行事や授業等の見学、交流機会の確保】 ・例えば合同で散策や遠足、児童が保育体験をする等、一方向だけでなく双方がプラスとなる交流ができる機会があればと思います。 ・「小学校ってこんなところなんだ」と具体的なイメージが持てる道筋をつけたいので、年長児が1年生の授業を参観できるようにして欲しいです。又、模擬授業を行って欲しいです。 ・我が園は、いくつもの小学校に分散して進学するので、近隣の小学校と交流はしているが、ほとんどの子どもがその学校に入学するとはならない。学校側が、学区の年長児対象にして交流の場を増やして頂くというのも考えて頂くと良いかなと思います。	

【就学前施設から発信、働きかけ】

- ・互いの教育方法を尊重し、幼小連携が義務感だけで行われることのないようにすることが大切だと考えています。
- ・園側の反省ではありますが、交流の際の事前事後の打ち合わせ等をする時間が互いに忙しく、十分に確保できていないので、今後は働きかけが必要と感じています。
- ・毎年1, 2, 3月のいずれかの日に年長児の担任が小学校へ訪問し、園児の姿と保護者について(配慮が必要な場合)伝達できるとより良いかと思う。

【小学校の先生が訪ねてきてほしい】

- ・幼稚園は小学校の先生が保育の様子を気軽に参観できるよう日常的に保育を公開し、園児の様子や担任の子どもへのかかわりについて実際に見てもらうことで、就学後の子どもの姿の見通しがもちやすくなるのではないかと。
- ・もっと幼稚園・保育園での就学前の子ども達が主体的に生活している姿を小学校の先生方にも見に来ていただきたいと思います。(校長先生や教頭先生だけでなく)
- ・小学校の先生が保育園での子どもたちの姿を見に来られ、そこで職員同士話ができるといいと思います。

【幼児教育を知ってほしい】

- ・小学校の全ての先生に、幼児教育(幼児の特性)を知ってもらう機会が設けられ、発達年齢がまだ就学前である児童に対して、手厚い指導をしていただけるような体制になっていけば良いと思います。
- ・遊びを通して学んでいるその内容について、小学校の先生に知っていただく機会を持ちたい。

【小学校から連絡が欲しい】

- ・既に行っておられるとは思いますが、それらの生活の上にある授業やクラス運営、学校の体制をもっと地域に発信してほしいです。そうすることで幼稚園の取り組みから小学校へのつながりが見えてくると思っています。
- ・要録を読んで詳しく知りたいと思うことがあれば連絡して頂けると嬉しいです。

【地域外でも多くの進学先と連携していきたい】

- ・要録以外にも、児童の入学予定の学校側との懇談が、地域以外の各校ともできればより良い接続ができるのではないかと思います。
- ・すべての進学先校と何らかの連携ができれば、園児を安心して入学させることができます。

【子ども一人一人と向き合ってほしい】

- ・気になる子への理解や知識が薄く感じられることがある。
- ・卒園児一人ひとりとまではいなくても、配慮が必要であったり、グレーゾーンの子どものための育ちの部分をしっかりつなげ、受け止めて頂けたらと思っています。

【要録を大切にしてほしい、読んでしっかりとほしい】

- ・要録については、子どもたちの大事な情報なので、個人情報保護の観点からも、取り扱いを慎重にしてほしい。
- ・交流時の子どもたちの姿や、要録等をしっかりと見て、読み込んで欲しい。
- ・その子のことをしっかりと伝える保育要録にすることは、保育所側の課題だと思いますが、時間と苦勞を費やして記入しているので、せめて担任の先生だけでも目を通していただきたいと願います。

【学校間での差をなるべく解消してほしい】

- ・支援が必要な子どもの情報を伝える時期と1年生担任へ必要な情報を伝える時期は異なります。幼小で各々の時期を見極め、全市で各期間を統一していただければいいのではと近年強く感じます。
- ・学校により連絡会がないところもあり、連続した支援を継続するためにも、統一した取り組みを実施してほしい。

【連携の重要性を知り、交流に前向きになってほしい】

- ・互いの教育の違いを突き合わせるだけでなく、違いを理解したうえで、具体的に交流の計画を立てることや、交流の意義やねらいを明確にして、事後研修で子どもの様子について話し合うことで、互いの視点を深めることができると思う。子どもの育ちをつなぐために小学校側も、幼小接続の必要性を感じてもらえたらと思う。
 - ・まずは管理職が幼小接続に理解を深めていただき、自校の教職員に幼小連携の大切さを知らせていただくとともに、小学校にとっても有意義な取り組みであることを知らせていただきたい。年に1度でも園の保育を参観していただきたい。
 - ・もう少し学校も接続に向けて前向きに考えてもらえたらと思う。
- 何がいっしょにできるのかを考えてほしい。